

II 事業報告

1. 地域連携部門

令和4年度センター部門報告

| | |
|---------|---|
| 1 部門名 | 地域連携部門 |
| 2 部門職員 | 部門長 大館 真晴 副部門長 木添 茂子 部員 高本 佳代子 |
| 3 実施期間 | 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで |
| 4 部門の概要 | <p>県民の保健・医療・福祉に資するため、地域の医療関係者や住民組織、及び産官学等との連携を図り地域貢献等事業を実施する。また、先の事業等を推進・発展させるための研究を実施する。よって、当該部門の事業は「地域貢献・研究推進」と「産官学連携」とに大別され、「産官学連携」は大学等連携・自治体等連携・企業等連携とに分けられる。</p> |
| 5 実施報告 | <p>令和4年における地域連携部門の活動としては下記のものあげられる。以下、内容別に概要を示す。</p> <p>I「地域貢献・研究推進」に関わるもの</p> <p>地域貢献・研究推進にかかわる事業は、下記の5事業が自治体等と連携しながら行われた。以下、各事業の事業名・研究代表者名（事業代表者名）・実施概要を示す。事業の詳細については各事業の事業報告を参照されたい。</p> <p>■宮崎市と連携した事業</p> <p>1) 事業名 : 地域高齢者のフレイル改善と予防に関するモデルプランの提案 <small>※宮崎市福祉部介護保険課・宮崎市いきがい運動指導員との連携</small> 代表者 : 串間敦郎（教授：人間社会と看護） 実施内容： <ul style="list-style-type: none"> ・いきいき健幸体操で介護予防運動作成のためのモデル地区となった2地区において、体力測定を行い、測定後健康寿命延伸のための講義を行った。 ・「フレイル予防のための運動」のパンフレットを作成し、フレイル予防について啓発した。 ・宮崎市の健康教室や自宅を訪問して体力測定時に評価できる「高齢者用体力診断ソフト」を完成させ、2地区の参加者の評価を行った。 ・フレイル該当者への自宅でできる運動とウォーキングに実施により体力面からの支援を行うことにより、健常者への回復を図るプランを提示できた。 </p> <p>2) 事業名 : 要支援・要介護者のための介護予防運動プログラム作成事業 <small>※宮崎市福祉部介護保険課・宮崎市いきがい運動指導員・TMリハサービスとの連携</small> 代表者 : 中角吉伸（助教：在宅看護学） 実施内容： <ul style="list-style-type: none"> ・研究協力施設で作成した暫定版の冊子を使用して効果検証を行い、暫定版を改訂して運動指導用の冊子・DVDを作成した。 ・運動指導用の冊子・DVDを社会化する予定であったが、コロナ感染症拡大の影響で実施に至らなかった。次年度社会化を行う。 </p> |

- 3) 事業名 : 更年期女性への健康支援事業 ～更年期を幸年期にするプロジェクト～
※宮崎市本郷地区との連携

代表者 : 大野理恵 (助教: 母性看護学)

実施内容:

- ・ 先行研究や令和3年度に行った更年期講座の結果をもとに、更年期周辺にある女性の抱える一般的な問題や症状について抽出したものを参考に宮崎市本郷地区の住民を対象にプレ更年期公開講座を実施した。
- ・ 研究・宮崎県内の更年期女性の実態把握のための基礎調査を実施した。
- ・ アンケート調査結果を参考にして具体的な健康支援プログラムの開発を予定である。

■大学等と連携した事業

- 4) 事業名 : 高等教育機関の在校生における性と生殖に関する支援事業

※フィオーレ古賀看護専門学校・宮崎学園短期大学・宮崎大学との連携

代表者 : 壹岐さより (准教授: 母性看護学)

実施内容:

- ・ ピアサポーター育成のための講座と振り返りの会を3回実施した。
- ・ 大学祭や文化祭におけるピアサポーターの出前講座を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となり開催できなかった。ピア活動は本学のサークル活動として継続していく。

■団体等と連携した事業

- 5) 事業名 : 認知症ヘルスプログラムの開発 ～医療・福祉の新しい地域包括ケアに向けて～

※市民団体オレンジの華との連携

代表者 : 田中美智子 (教授: 看護人間学 I)

実施内容:

- ・ 綾町において3回の座学研修会と7回の運動研修プログラムと1回の面談を兼ねた研修を行った。
- ・ 宮崎市本郷地区、赤江、木花、清武地区を対象に3回シリーズの座学研修を行った。

II 「産官学連携」に関わるもの

産学官連携にかかわる事業は、下記のものが行われた。以下、実施概要を示す。事業の詳細については各事業の事業報告を参照されたい。

■県と連携した事業

事業名 : 神話のふるさと県民大学開催

代表者 : 大館真晴 (教授: 文化と看護)

実施内容:

- ・ 宮崎県文化振興課との共催で、「神話のふるさと県民大学」として計3回の講座を実施した。
- ・ 新型コロナウイルス禍の状況下、全ての講座においてYouTubeのライブ配信や録画配信も併せて実施した。

■高等教育コンソーシアム宮崎

令和4年度における本学のコンソーシアム専門部会は、下記の高等教育コンソーシアム宮崎(以下、コンソーシアム宮崎)の事業を協力実施した。

【授業充実事業】授業のネット配信事業や単位互換事業への協力。コーディネート科目事業への協力。

【教育力・研究力向上事業】合同FD事業、公募型卒業研究テーマへの協力。

【学生交流事業】学生インターゼミナール事業への協力。

【その他】コンソーシアム宮崎企画運営委員会への参加協力。

■教育機関との連携

宮崎県立宮崎南高等学校が取り組む地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力型)「産学官連携による人の地域循環教育プログラム」について、講師派遣および研究指導等の活動協力を行った。活動協力を行った教員は以下のとおりである。

★鵬イノベーションコンテスト(第1学年)

藪田 亨 (理事長)

テーマ:【防災】「地震・津波災害から早期に避難をするため、どのような対策、取組が有効かを提案せよ」

佐藤 信人 (教授:人間社会と看護)

テーマ:【医療】「認知症になっても住み慣れた地域で最後まで健康で幸せに暮らせる仕組みづくりの方法を提案せよ」

★探究活動(第2学年)

川村 道子 (教授:精神看護学)

テーマ:「ぐっすり寝たい人へ ～音楽で質の良い睡眠を～」

葛島 慎吾(講師:精神看護学)

テーマ:HSP について

■包括協定

2019年度に高原町と包括協定を締結した。その後、新たに協定を締結した実績はないが、協定締結については、大学事務局と情報を共有しながら取り組んでいく方針である。

■市町村との連携による出前講座

教員の研究教育活動及び社会活動の成果を「出張！ひむかアカデミア」として冊子にまとめ、県内市町村、各種団体等に配付している。そのうち依頼のあった教員について出前講座を開催している。令和4年度は24件の依頼があり24件実施した。県内の市町村にさらなる周知を図るため、広報活動を行った。

6 評価

【評価】

「地域貢献・研究推進」「産学官連携」の各事業については、自治体や団体等と連携し、それぞれの目的に沿った成果があげられている。「市町村との連携による出前講座」については、24件の講座が開催できた。このことは出前講座の周知が広がったことやコロナ感染拡大が収束してきたことにより関係団体等の活動が展開された要素といえる。

【改善点】

「地域貢献・研究推進」について、自治体との連携先が宮崎市と綾町とに限られている。今後、他の自治体との連携も新たに模索する必要がある。

また、産学官連携についても、県担当課の課題の把握、自治体や各種団体との包括協定の締結を視野にいれ県民の保健・医療・福祉の推進を図っていく必要がある。

1-1)

| | |
|------------------------|--|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 中角 吉伸 |
| 2 事業名等 | 要支援・要介護者のための介護予防運動プログラム作成事業 |
| 3 事業組織 | 宮崎県立看護大学：中角吉伸、串間敦郎、重久加代子、原村幸代、武田あゆみ 宮崎市福祉部介護保険課：井上主幹（理学療法士）、戸越保健師 宮崎市いきがい運動指導員 リハビリ特化型デイサービスセンター TMリハサービス：田村寛（施設長兼理学療法士） |
| 4 事業実施期間 | 当初予定：平成30年4月1日から令和3年3月31日まで 延長：令和3年4月1日から令和5年3月31日まで (対象年度 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで) |
| 5 事業の目的 | <p>1) 平成21年～23年に宮崎市と協力して開発した、介護予防運動プログラムの有用性と要支援・要介護者への適応の困難さを検証する。</p> <p>2) 新たに要支援者・要介護者を対象とした運動プログラムの開発を行い、その有用性を検証する。</p> <p>3) 専門職以外でも安全に効果的に行うためのポイントを明らかにし、その普及のために活用できるツールづくりを行う。</p> |
| 6 事業実施報告 | <p>1) 介護予防運動プログラムの有用性と要支援・要介護者への適応の困難さを検証する</p> <p>①有用性の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に実施し、令和3年度宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報に投稿した。 <p>②要支援・要介護者への適応の困難さを検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に実施し、令和2年度宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報に投稿した。 <p>2) 新たな運動プログラムの開発と有用性の検証</p> <p>①運動プログラムの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に暫定版として冊子化した。 <p>②有用性の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の11月より、研究協力が得られた通所型リハビリ施設で効果検証を実施した。令和3年度に作成した暫定版の介護運動プログラム冊子を使用して、施設職員による運動指導を通して、汎用性や安全性、実効性の視点で効果検証を行った。研究協力者の新型コロナウイルス罹患や、自宅待機等で継続的な運動継続によるデータが十分に揃っていないため、現在も運動の実施やデータ測定は継続中であるが、汎用性や安全性は確認できた。 <p>3) 安全に実施するためのツールづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データが揃っていないため、効果検証の社会化は追加で得られたデータも含めて次年度に行う。ツールづくりに関しては、安全性や実効性は確認できたため、共同研究者の理学療法士と協議を重ねて追加修正を行い、要支援・要介護者のための介護予防運動プログラムとして冊子化およびDVD作成を行った。3月末納品予定で、納品され次第、アンケート調査への協力施設に順次配布を予定している。また、次年度の運動指導員養成講座もしくは専門研修会で、運動指導を実施する職員への配布を予定している。 |

7 事業の評価

新型コロナウイルス感染症の拡大等で、当初の計画から変更を余儀なくされて2度の事業延長を要したが、ようやく事業の目的を概ね達成できた。今年度も、効果検証を開始後に感染症の拡大に伴ってデータ収集が十分に行えなかった部分もあるが、安全に継続して実施できることは確認でき、ツールづくりにつなげることができた。今後は、研究活動を進めて社会化していくことと、普及活動を行っていくことが課題である。

1-2)

| | |
|------------------------|--|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 壹岐 さより |
| 2 事業名等 | 高等教育機関の在校生における性と生殖に関する支援事業 |
| 3 事業組織 | 統括：壹岐 さより（宮崎県立看護大学 講師） 【宮崎県立看護大学】 松本 憲子（准教授） 【フィオーレ古賀看護専門学校】 片木 めぐみ（専任教員・不妊症看護認定看護師） 【宮崎学園短期大学】 恵利 有子（養護教諭） 【宮崎大学 教育学部】篠原 久枝（教授） |
| 4 事業実施期間 | 令和2年4月1日から令和5年3月31日まで (対象年度 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで) |
| 5 事業の目的 | <p>妊孕性の知識に関する国際比較研究において、日本の知識レベルが非常に低いことが指摘されている。この原因の一つにこれまでの性教育は、望まない妊娠や性感染症を避けることに重きが置かれ、生殖に関する教育が不足しているということがあげられる。</p> <p>さらに正しい知識を増やしつつ、世代を超えた他者との関りや同世代からのピアプレッシャーを感じることで自己の将来について考えるきっかけとなると考えられる。</p> <p>本研究は、高等教育機関の在学生在が、生殖に関する基礎知識を持ち、自己の将来を見据えた健康的な生活ができるような支援を行うとともに、支援のあり方についても明らかにすることを目的とする。</p> |
| 6 事業実施報告 | <p>【令和2年度実施】</p> <p>1) 県内の高等教育機関の在在学生における生殖に関する知識とライフイベントイメージの関係についての実態調査を行った。また、次年度の性と生殖に関する講座の事前準備として月経と妊孕性に関連した性教育に関する先行研究を調べ、第39回日本思春期学会にて発表した。</p> <p>【令和3年度】</p> <p>1) 性と生殖に関する講座内容の検討 文献検討より、性と生殖に関する知識や関心高めるためには、自己のライフプランに関心を持つことが重要であることが分かった。そのためピアサポーターの育成のためには、性と生殖に関する知識を得るだけでなくライフプランを描くための講座を含めて4回の講座を計画した。</p> <p>2) 性と生殖に関する講座の実施 1) に基づき講座を企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大により実施が制限され、2回の講座のみ開催した。 8月1日（フィオーレ古賀看護学校）、8日（宮崎県立看護大学）：ライフプランに関連する講座（対面） 参加者：合計34名 3月28日：生殖医療の現状とライフプラン（オンライン） 講師：西岡有可（不妊症看護認定看護師）戸田さやか（臨床心理士） 参加者：31名</p> |

3) ピアサポーター育成のための準備講座

ピアサポーター希望者を募ったところ本学より 31 名、フィオーレ古賀看護学校より 3 名の希望があり、2) の講座に参加した。

4) 学会発表

令和 2 年度に実施した県内の高等教育機関の在学生における生殖に関する知識とライフイベントイメージの関係について、2 年課程である保育系高等教育機関に所属する学生の妊孕性知識とライフイベントイメージの関係の実態調査結果について日本助産診断実践学会誌にて報告した。

【令和 4 年度】

1) ピアサポーターの育成

ピアサポーター育成のための講座と振り返りの会を計 3 回開催した。

●9 月 23 日 (宮崎県立看護大学)

テーマ：素敵な女性の生き方「子育てって大変なの？」

講師：小澤のり子 (延岡子育て支援センター およこの森施設長)

日高由起 (保育士)

参加者：学生 7 名 (宮崎県立看護大学学生) 未就学児親子：7 名

●12 月 17 日 (土) (宮崎県立看護大学)

テーマ：「月経と妊孕性について」

講師：川越靖之 (宮崎県立看護大学・オンライン)

参加者：看護学生：21 名 教員：3 名

●2 月 18 日 (土) (フィオーレ古賀看護専門学校)

テーマ：ライフプランを考える会

講師：松本憲子 (宮崎県立看護大学)

片木めぐみ (フィオーレ古賀看護専門学校 不妊症看護認定看護師)

壹岐さより (宮崎県立看護大学)

参加者：9 名

【今後の予定】

ピアサポーター育成のために取り組んだ講座について、日本生殖看護学会にて発表の予定である。

7 事業の評価

3 年間の本事業によって、継続的に講座に参加した 9 名がピアサポーターとして準備ができたと考える。しかし、コロナ禍によって講座の開催が遅れ、また活動の場として考えていた大学祭がクラスマッチに変更になりピアサポーターとしての活動ができなかったことが今後の課題として残る。事業は終了するが、本学に母子保健に関連した活動を行っているサークルと連携しており、本学のピアサポーターは、そのサークルの一員でもある。今後は、そのサークルとも連携し、大学祭に限定せずに活動の場を設け、プレコンセプションケアの活動を継続していく予定である。

1-3)

| | |
|------------------------|--|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 串間 敦郎 |
| 2 事業名等 | 地域高齢者のフレイル改善と予防に関するモデルプランの提案 |
| 3 事業組織 | 宮崎県立看護大学：串間敦郎、中角吉伸、原村幸代、中村千穂子、林恵理子、中尾裕之 宮崎市福祉部介護保険課：井上美佐課長補佐、田口主任主事、福元主任主事、 宮崎市いきがい運動指導員会 |
| 4 事業実施期間 | 令和2年4月1日から令和5年3月31日まで (対象年度 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで) |
| 5 事業の目的 | <p>【目的】2009年度から2011年度にかけて、宮崎市長寿支援課（現介護保険課）と共同で本学のプロジェクトとして、宮崎市内約130カ所の運動教室で実施する、介護予防運動「いきいき健幸体操」を作成した。その際、効果を検証するために、モデル地区となった宮崎市内の6カ所の運動教室において体力測定を実施した。また市内の全運動教室でも簡易の体力測定を実施しており、現在も年4回実施している。当初の測定から10年が経過し、当時の参加者は少なくなってきたと考えられるが、参加している参加者も相当数いると推測される。</p> <p>そこで10年前（2010年）の参加者に対し再度測定を行い、10年間の体力測定値や筋量の変化と生活習慣、日常生活動作能力や介護予防チェックとの関係について検証することで、フレイルや要介護に移行すると予想される体力について、測定値を使つてのカットオフ値の予測がある程度可能となり、身体の機能の維持に必要な具体的な目標値も設定できる。そして、身体の機能維持の目標に向けて介護予防運動を実施し、支援が必要な高齢者に個別の支援を行う事は、高齢者の健康寿命の延伸に貢献できると考える。また「いきいき健幸体操」作成事業を始めて10年が経過したことから宮崎市内の運動教室の効果検証とその支援も必要だと考えられる。そこで、令和3年度は次のようなことを事業として進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 10年前（2010年）からの参加者について、再度体力測定を行い、過去と現在の身体の機能や体組成の状況を比較し生活習慣や、各チェックリストにより評価を行う。 2) 10年前（2010年）からの参加者と現在の運動教室参加者に対し、スクリーニングすることで、支援が必要なフレイルやその予備群に該当する高齢者を抽出し、各自に必要な支援を行う。 3) 宮崎市内の健康運動教室で体力測定の結果からその教室の効果を検証し、今後必要な支援を行う。 4) 実施したフレイル該当者と予備群への支援についてモデルプランとしてまとめ、県内各市町村への普及を図る。 |
| 6 事業実施報告 | <p>以下が2022年度に実施した内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) いきいき健幸体操で介護予防運動作成のためのモデル地区となった2地区において、体力測定等を行った。そして、測定後健康寿命延伸のための講義を行い、今後の生活にいかしてもらおうようにした。また体力測定の結果からフレイルの該当者を把握した。 2) 「フレイル予防のための運動」のパンフを作成し、自宅を訪問して支援する予定であった参加者20名に配布し、フレイル予防について啓発した。その際、パンフと共に運動実施に関する注意点等記載した文書を配布した。 |

3) 宮崎市の健康運動教室や自宅を訪問して体力測定時に評価できる、「高齢者用体力診断ソフト」を完成させた。これまでの測定データはクラウドに保存されており、このソフトとパソコンがあれば、どこでも過去との比較評価ができ、プリンターに出力することができるようになり、評価の利便性が高まった。このソフトを使用し、1) の2地区の参加者の評価を行い、結果と共に「フレイル予防のための運動」のパンフも配布した。

7 事業の評価

新型コロナウイルス感染拡大が収束せず、事業の開始や計画変更が余儀なくされ、自宅を訪問しての支援は実施できなかった。そのためフレイル予防運動についての効果検証はできなかったが、自宅で手軽にでき、屋外での健幸ウォーキングについてまとめた「フレイル予防運動」のパンフは作製でき、支援予定者や体力測定実施者に配布でき、フレイル予防の啓発はできた。またこの事業により、「高齢者用体力診断ソフト」を完成させ、フィールドでの体力測定の際、過去のデータを取り込んでの評価も手軽に行えるようになった。次年度以降も引き続き他の研究費を活用し、今回実施できなかった自宅訪問による高齢者のフレイル予防支援を行う予定である。

1-4)

| | | | | | |
|---|----------------------|--|--|----------------------|--|
| 1 | 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 田中 美智子 | | | |
| 2 | 事業名等 | 認知症ヘルスケアプログラムの開発 ー医療・福祉の新しい地域包括ケアに向けてー | | | |
| 3 | 事業組織 | 代表者 宮崎県立看護大学 田中 美智子 担当者 宮崎県立看護大学 林 恵里子 市民団体 オレンジの華 黒木裕子、吉野真澄 | | | |
| 4 | 事業実施期間 | 令和3年4月1日から令和5年3月31日まで (対象年度 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで) | | | |
| 5 | 事業の目的 | 目的：地域住民の認知症に対する知識の啓発を行い、生活習慣と関連した予防法の普及につとめる。参加者が、認知症予防の実現を目指した自己の生活習慣改善のケアプランを創出することを目的とする。 実施内容 ① 認知症に対する正しい知識の普及 ② 地域包括支援センターからの役立つ情報の提供 ③ 生活習慣と関連した予防ケアプログラムの実施：自己の生活習慣改善目標を設定し、実施・評価する。 | | | |
| 6 | 事業実施報告 | 【綾町】 延べ人数 住民48名、学生7名参加 | | | |
| | 月日 | 担当者(講演者) | 内容 | 参加者 | 備考(参加者の反応) |
| | 9/4 | けいめい記念 病院 岡原一徳先生 | 「認知症の理解と予防」 ・認知症の理解 ・予防の知識の習得 | 7名 | 認知症の知識を深め、治療薬はないが生活習慣の改善で症状が出現する年齢を伸ばすことができることがわかったなど |
| | 9/9 | オレンジの華 黒木裕子他 | 運動プログラム開始前の体力測定 ・現状の把握 ・運動リスクの把握 ・運動プログラムの説明 | 3名 | |
| | 9/11 | 南九州大学 長友多恵子先生 オレンジの華 黒木裕子 | 「いつまでも好きなことをするための食事パート3」 「運動で未来のからだづくりを」 | 7名 | 食事のタンパク質摂取量の計算方法が難しかった。タンパク質摂取不足が確認できたなど |
| | 9/16 | オレンジの華 黒木裕子他 | 運動プログラム ・参加者の生活習慣改善のための目標設定 | 4名 | 継続参加の方から、下肢筋力の低下に困っていることなどの相談があった。 |
| | 9/30* | 宮崎県立看護大学 田中 美智子 オレンジの華 黒木裕子他 | 「睡眠でこころもからだも健康に」 ・睡眠習慣を記録紙、現状を把握する。 運動プログラム ・歩行について | 6名 学生4名 引率教員1名 | 中途覚醒がある2名は、睡眠に関する相談があった。また、睡眠に限らず、便秘についてなど生活での困りごとの相談もあった。運動では、速歩ができない参加者は足踏みで対応 |

| | | | | |
|---------------------|--|--|----------------------|--|
| 10/7* | 綾町地域包括支援センター 中野美香氏 オレンジの華 黒木裕子他 | 「どうしよう？と悩んだ時の相談窓口」 運動のプログラム インターバルトレーニング（速歩ーゆっくりー速歩：各1分） | 5名 | 睡眠の生活習慣についての振り返りを行い、家族の介護で夜間睡眠できないや熟睡感がないなどの問題があるなどの相談があった。 |
| 10/14 ～ 10/28 | オレンジの華 黒木裕子他 | 運動のプログラム インターバルトレーニング（速歩ーゆっくりー速歩：各2分） ・食習慣に関しての振り返り ・姿勢について | 2～5名 10/14は学生3名参加 | 速歩で呼吸が乱れるので、運動中のマスク着用は距離を設けた場合は不要とした。食習慣の見直しに関しては、タンパク質をどう摂取するか工夫が各参加者から出てきた（アーモンドやナッツの利用、みそ汁に牛乳を入れるなど）。 |
| 11/4 | オレンジの華 黒木裕子他 | プログラム後の体力測定 運動プログラム | 4名 | 参加している方たちはこのプログラムを継続してもらいたいとの希望 |
| 12/2 | オレンジの華 黒木裕子他 松井康代氏 | 面談：測定結果の返却 簡単料理でタンパク質を摂ろう。 | 1名 | 1ヶ月期間が開いたので、研修会は終了したのかと思っていた。 |

9/30*10/7*は9/18が台風のため、延期となり、睡眠と運動、包括支援センターの話と運動に変更した。面談の際、参加できなかった方には郵送にて計測結果を送付。今回のセミナーについて話を聞きたいという申し出も快く了承してもらい、別日に2名はインタビューを行った。

【宮崎市】

昨年度3月に行う予定であった研修会が新型コロナウイルス感染症の感染拡大のために5～6月に延期になったので、5～6月と2月に、声かけ地区を変更して2回、本学にて開催した。両セミナーとも研修Ⅰ～Ⅲの開催で、開催内容は同一の内容であった。

| 開催年月 | 声かけ地区 | 研修Ⅰ | 研修Ⅱ | 研修Ⅲ | 総数 |
|-----------|----------------|-----|-----|-----|------|
| 2022.5～6月 | 本郷地区 | 27名 | 16名 | 20名 | 63名 |
| 2023.2月 | 赤江地区、木花地区、清武地区 | 43名 | 33名 | 31名 | 107名 |

研修に対するアンケート結果は全体として、回収率は87.1%であった。「よかった」が92.4%（97人/105人）であった。各研修での「よかった」は、研修Ⅰが97.6%、研修Ⅱが88.5%、研修Ⅲが89.2%であった。研修に対する意見、感想には「講演してくれた先生の講座があれば、また参加したい」「居住地域で開催してほしい」などの記載が見られた。

7. 事業の評価

事業目的に沿った認知症予防事業の成果は見られたが、コロナ禍の開催であったことで、高齢者はどうしても参加することが遠のいているようにも感じられた（今年度の開催時期には行動制限はなかったが、感染者数はこれまで以上に増加していた）。

- ① 認知症と生活習慣とのつながりが理解できたこと（「気づく」）で自己の生活習慣を意識的に改善する行動（「変える」）につながってきており、その行動を生活の中で続けている参加者も見られた（「身につける」）。
- ② 地域包括支援センターと協働で参加者の健康にかかわる支援ができ参加者の介護にかかわるサービスや役立つ情報の提供が小さな安心につながる。
- ③ 継続した実践プログラムの中で、参加者同士の会話から、生活習慣の改善、見直しなどの報告がなされた。

綾町では、今回、行った内容で取り入れられる部分を取り入れ、継続を検討している。

宮崎市においては、3回の講演のみのセミナーとし、2度、開催した。同じ内容であったが、声かけ地区を変えたことで、参加者が集まり、アンケートの反応もよかった。本学での開催としたが、高齢者の参加が多いこともあり、参加者としては居住地域でのセミナーの開催希望の声が聞かれた。今年度で、この取り組みは終了するが、要望があれば、新たに計画し、開催したいと考える。

1-5)

| | |
|------------------------|---|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 大野 理恵 |
| 2 事業名等 | 更年期女性への健康支援事業 ～更年期を幸年期にするプロジェクト～ |
| 3 事業組織 | 統括：大野 理恵（宮崎県立看護大学 助教） 担当者：壹岐 さより（宮崎県立看護大学 准教授）、長鶴 美佐子（同大学 特任教授）、 長友 舞（同大学 助手） |
| 4 事業実施期間 | 令和3年4月1日から令和6年3月31日まで (対象年度 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで) |
| 5 事業の目的 | 更年期は閉経前後の約10年間をさし、この時期の女性は更年期症状といわれる心身両面の不調を経験し苦慮している。この更年期症状は、その受け止め方や日常生活との関係が深く関与しているといわれているが、この症状を理解し日常生活調整の視点からセルフケアする人々は少なく、「更年期だから」と我慢し、民間医療や医学的介入に頼っている現状がある。 本事業では、このような現状を受け、更年期女性が自らの心身の変化への理解を深め、セルフケア能力を高めて自分らしく過ごすことができるよう、日常生活調整を柱とした健康支援について研究的に取り組み、その開発・普及を目指す。また、本事業では「プレ更年期」のあり様が、更年期のあり様にも影響を及ぼすと考え、プレ更年期女性への支援も対象にして取り組むものとする。 |
| 6 事業実施報告 | <p>1) 更年期健康支援の実践</p> <p>令和3年度に引き続き、更年期女性への健康支援講座を2回開催した。</p> <p>先行研究や令和3年度に行った更年期講座の結果をもとに、更年期周辺にある女性の抱える一般的な問題や症状について抽出したものを参考にして宮崎市本郷地区の住民を対象にしたプレ更年期公開講座を計画実施した。</p> <p><講座までの流れ></p> <p>8月：本郷地区まちづくり推進員会事務局へ講座開講について承諾を得た。 前年度と同様に、本郷地区自治会連合会の共催、社会福祉協議会の後援について、了承を得られた。</p> <p>9月：本郷地区へ自治会を通じてポスターの配布を行った。ポスター配付枚数600枚。</p> <p>10月：本郷地区スーパー等へポスターを掲示した。</p> <p>今年度は、更年期の症状に対する悩みや更年期に関心のある方を対象に、更年期講座を実施した。対象者が参加しやすい休日の午後に、2回の異なる講座を1セットと企画し、開催した。1回のみ受講も可能として募集したところ累計15名の参加があった。</p> <p><更年期講座1回目></p> <p>参加者：9名 運営2名 講師1名 (参加者内訳) 40歳代：5名 60歳代：3名 80歳代：1名</p> <p>実施日：令和4年10月26日(土)</p> <p>時間：13:30-15:30(2時間)</p> <p>場所：宮崎県立看護大学 多目的ホール</p> <p>講座のテーマ：-今より輝く私に！-「更年期を幸年期へ！」第1弾</p> <p>講座の内容：① 講義「更年期って何？」 大野理恵 ② ワークショップ「更年期のための心のケア」 松本憲子先生 ③ 井戸端談義・個別相談会 ④ アンケート・終了</p> |

<更年期講座2回目>

参加者 : 6名 運営 : 2名 講師 : 1名
(参加者内訳) 40歳代 : 4名 60歳代 : 2名
実施日 : 令和4年11月5日(土)
時間 : 13:30-15:00(2時間)
場所 : 宮崎県立看護大学 多目的ホール
講座のテーマ : 「今より輝く私に!」 「更年期を幸年期へ!」 第2弾
講座の内容 : ① ワークショップ 更年期ヨガ 田丸喜代子先生
② 井戸端談義・個別相談会
③ アンケート・終了

2) 研究: 宮崎県内の更年期女性の実態把握のための基礎調査

宮崎県内の更年期前後の時期にある女性を対象にして、更年期の捉え方や自覚症状の有無、対処方法の実態等を調査し、県内の女性の更年期に関する知識と予防・対処能力の様相について質的量的研究で明らかにすることを目的に基礎調査を行うこととし、11月に研究倫理委員会の承認を得た。11月から12月に、母親や親戚等が更年期前後にあたると思われる高校生の保護者や、企業で働く女性や職員の配偶者等を対象に研究協力を依頼し、承諾を得、2月末を回答期限としアンケート調査を実施した。今後、得られた調査内容から、宮崎県内の更年期前後の女性の更年期に関する知識と予防、対処能力の実態を把握し、必要な支援について検討する。

3) その他

令和3年度、4年度に実施した更年期講座受講前後のアンケート調査結果を参考にして、健康支援に必要なと思われる内容を検討している段階。具体的な更年期健康支援プログラムの内容について検証、検討を重ねる予定である。

7 事業の評価

1) 更年期健康支援プログラムの実施と開発(令和4年4月~令和5年3月)

本年度は、前年度の更年期講座後のアンケート内容を検討し、1回目の講座では1つの知識を得ること、2回目の講座では、参加者同士が語り合う機会を多く得られるよう、2回の講座として行った。

地域の自治会や小売販売店にポスターの配布・掲示において協力を求めた。第1回目の参加者は9名、2回目は6名だった。2回継続した講座としたため、1回目の講座後の参加者の反応や変化、要望等を2回目の講座の井戸端談義で知ることができ、参加者の生の声を聴く機会となった。

昨年と同様、公開講座の前後にアンケート調査を行った。講座前のアンケートでは、参加者のほとんどが身体的症状を有しており、その対処方法を知りたいと考えていた。公開講座後のアンケートでは、更年期に対するこころの持ちようや、付き合い方、また、日常生活に取り入れられるストレッチ等、具体的な対処方法が分かったとの感想があった。井戸端談義では「一人ではない」「家族や周囲への理解も必要」「他者と語ることでリフレッシュできた」等の意見があり、他者の経験談を聞いたり、皆が同じ思いをしていることが分かったりしたことで気持ちが楽になったとの感想も見られた。

定期的なセミナーや活動を求める声もあり、更年期に悩んだり、関心を持ちつつも講座等に参加する機会がなかったりする更年期周辺にある女性のニーズが明確になったことは評価できると考える。今回2回に分けて講座を実施したが、約7割の方が両講座を受講していたことから、働き盛りの女性が参加しやすい週末の午後に短時間でのプログラム内容で開催したことは、参加しやすかったのではないかと考える。

今回、女性を取り巻く社会や家族の更年期に対する理解を深めてもらう必要性が新たに明らかとなったと感じる。今後、家族や配偶者を対象にし、更年期に対する理解を深める機会となるような支援プログラムを取り入れたいと考える。

2) 宮崎県内の更年期女性の実態把握のための基礎調査

宮崎県内の更年期周辺にある女性を対象に、心身の状態や女性を取り巻く環境等についての実態調査を実施した。今後は得られたデータの分析を行い、県内の更年期前後にある女性の更年期に関する知識と予防・対処方法、症状や社会的背景などの実態を把握し、更年期健康支援プログラムの開発を実施予定である。

1-6)

| | |
|------------------------|---|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 大館 真晴 |
| 2 事業名等 | 神話のふるさと県民大学開催事業 |
| 3 事業組織 | 大館真晴(宮崎県立看護大学教授:事業代表者)・藪田 亨(宮崎県立看護大学理事長) 宮崎県総合政策部みやざき文化振興課 |
| 4 事業実施期間 | 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで |
| 5 事業の目的 | <p>本事業は以下に示した3点を目的とし事業活動を展開するものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に対する研究成果の還元および学習機会の提供 宮崎県立看護大学(以下、本学)の主催する神話のふるさと県民大学(以下、県民大学)は、本学(普遍分野・文化と看護)がこれまで蓄積してきた最新の研究成果を県民に還元し、地域住民への学習機会を提供するものである。 ・地域の必要とする学術情報の提供 宮崎県は人文科学系(文学、歴史、民俗学など)の学部学科がなく、人文科学に関する研究が手薄な状況といえる。そのような状況下、人文科学系の著名な講師陣を県外より招聘し、公開講座を開催することは、本県にとって意義深い事業といえる。 開催予定の県民大学においては、県民の関心度の高い、記紀神話や神楽などを中心に、宮崎の文化に関する最新の学術情報を提供したいと考えている。 また、この事業は本県が目指す、神楽の国連教育科学文化機関(ユネスコ)無形文化遺産登録を目指した活動の一助となるものである。 ・他機関と連携した効果的な運営でより多くの県民に研究成果を届ける 本事業については県みやざき文化振興課と共催する予定である。会場は交通利便性の高い県電ホールやJA:AZMホール等を予定している。広報活動、講演会当日の運営、アンケート等の実施については、県みやざき文化振興課と連携して行うものとする。上記の他機関と連携した活動により、より多くの県民への浸透を図りたい。 |
| 6 事業実施報告 | <p>令和4年度は、県文化振興課との共催で、「神話のふるさと県民大学」として計3回の講座を実施した。講師の選定および出演交渉は本学が担当し、運営・広報・会場選定等については県文化振興課が担当した。講師の謝金及び旅費については宮崎県立看護大学と県文化振興課とで分担した。また、新型コロナ禍の状況下、全ての講座においてYouTubeのライブ配信や録画配信も併せて実施した。令和5年2月17日時点において、第1回が471回の再生回数があり、第2回目は239回、第3回目は114回の再生回数があった。この取り組みにより「神話のふるさと県民大学」を県内だけでなく、県外にも発信できた。</p> <p>I、対面式</p> <p>① 令和4年9月3日(土) 13:30~16:30 JA・AZMホール本館 大研修室 参加者: <u>82名</u> 講師 平藤 喜久子氏(國學院大學教授)・上大岡 トメ氏(イラストレーター) 中西 可奈氏(フリーアナウンサー) 演題 「【トークイベント】 日向神話を歩く 」</p> |

② 令和4年11月26日(土) 13:30~16:30

企業局県電ホール 参加者: 74名

出演: 上野 誠氏(國學院大學教授)・大館 真晴氏(宮崎県立看護大学教授)

「日本人と歌～記紀万葉から現代短歌まで～」

※大館氏 演題「記紀歌謡の魅力」

③ 令和4年12月18日(日) 13:30~16:30

宮崎県防災庁舎51・52号室 参加者: 114名

講師 千家 和比古氏(出雲大社権宮司)・荻原 千鶴氏(お茶の水女子大学名誉教授)

長友 安隆氏(青島神社宮司)・川島 恵氏(MRT宮崎放送アナウンサー)

演題 「神を迎える神事について ～出雲と日向～」

II、動画配信 ※各講座 集計数は令和5年2月17日(金)までの数

① 9月3日開催 リレー講座①

■視聴回数: 471回

■総再生時間: 88.2時間

■平均視聴時間: 11分14秒

② 11月26日開催 リレー講座②

■視聴回数: 239回

■総再生時間: 59.6時間

■平均視聴時間: 14分58秒

③ 12月18日開催 リレー講座③

■視聴回数: 114回

■総再生時間: 13.7時間

■平均視聴時間: 7分12秒

7 事業の評価

全ての講座について、講座終了後に受講者へのアンケートを行った。この業務については県記紀編さん記念事業推進室が担当した。

当事業への参加者は合計270名(総再生回数824回)であった。各回の講座で行ったアンケート結果においても、回答者のおおよそ8割が「とても満足した」もしくは「ある程度満足した」と回答しており、非常に好評であった。

1-7)

| | |
|------------------------|---|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 大館 真晴 |
| 2 事業名等 | コンソーシアム宮崎への支援 |
| 3 事業組織 | コンソーシアム専門部会 |
| 4 事業実施期間 | 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで |
| 5 事業の目的 | コンソーシアム宮崎の各事業への支援をはかり、本学としても広報活動等に活発に利用していく。 |
| 6 事業実施報告 | <p>令和4年度における本学のコンソーシアム専門部会は、下記の高等教育コンソーシアム宮崎(以下、コンソーシアム宮崎)の事業を協力実施した。</p> <p>【学生交流事業】－学生インターゼミナール事業</p> <p>【入口と出口充実事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> －中高生への県内大学情報発信 －大学生への就職支援(インターンシップ) <p>【授業充実事業】－授業ネット配信</p> <ul style="list-style-type: none"> －単位互換 －コーディネート科目事業 <p>【教育力・研究力向上事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> －合同FD事業 －公募型卒業研究テーマ <p>【魅力的な高等教育環境構築事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> －宮崎・学生ビジネスプランコンテスト －SD研修事業 －初等中等教育との連携事業 －産業界との連携事業 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> －コンソーシアム宮崎運営委員会 －コンソーシアム宮崎 一般社団法人設立準備委員会 －一般社団法人高等教育コンソーシアム宮崎企画・運営委員会 <p>【学生交流事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生インターゼミナール事業 <p>令和4年のインターゼミナールについて、新型コロナ禍の影響により開催は見送られた。</p> <p>【入口と出口充実事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生への県内大学情報発信 <p>コンソーシアム宮崎の依頼にもとづいて情報提供を行い、Web上やサテライト・オフィスでの情報発信を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生への就職支援 <p>本学学生に対して、就職支援に関する講演会等の情報提供を行ったが看護職志望者の多い本学</p> |

学生の特性と合わず、本学からの参加者は無かった。

【授業充実事業】

・コーディネート科目

11月1日から12月5日まで、「宮崎の郷土と文化」をテーマとして実施された。開催方法は新型コロナ禍の影響によりWeb上での開催となった（昨年と同内容）。

本学からの履修者は無し。全15回の授業のうち1回を本学が担当した。講師は大館真晴教授で、演題は「国名「日向」の由来ー日本書紀・風土記の物語からー」であった。

・単位互換

本学からは、「宇宙地球科学」（小河准教授）、「宮崎の文化」（大館教授）の2科目を提供した。

【教育力・研究力向上事業】

・合同FD事業

高等教育コンソーシアム宮崎加盟機関の教員の研鑽について情報交換を行い、それらの活動を通じたネットワーク形成について協議を行った。

・公募型卒業研究テーマ事業

令和4年度については、教務委員会で協議を行い、本学のカリキュラムスケジュールとあわないなどの理由で参加を見送ることとなった。

【魅力的な高等教育環境構築事業】

・本学が参加した事業はなし。

【その他】

・コンソーシアム宮崎運営委員会

コンソーシアム宮崎運営委員会（年間2回）に参加し、コンソーシアム宮崎の企画運営に対して協力を行った。

・コンソーシアム宮崎 一般社団法人設立準備委員会

一般社団法人化に向けて、準備委員会に参加し、定款や規則等の案について協議した。

・一般社団法人高等教育コンソーシアム宮崎企画・運営委員会

法人化に伴い、企画・運営委員会が設置され、川原瑞代センター長が委員に就任し、12月14日から企画運営に協力し活動した。

7 事業の評価

コンソーシアム宮崎の事業に対して、本学は協力可能な事業に関して、積極的に協力している点でひようかできる。ただし、令和5年度からは、組織のありようや事業内容が大幅に変化するため、慎重に対応していく必要がある。

2. 看護職等生涯學習部門

令和4年度センター部門報告

| | |
|--|---|
| 1 部門名 | 看護職等生涯学習部門 |
| 2 部門職員 部門長 川原 瑞代 副部門長 金子 美千代 部員 木添 茂子 | |
| 3 実施期間 | 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで |
| 4 部門の概要 | <p>本学の人的資源等を活用し、医療や社会の変化に対応するため看護職及び地域住民の生涯にわたる学習ニーズにこたえる部門である。</p> <p>この部門は、リカレント教育と現任教育で構成する。リカレント教育では、地域の多様な学習ニーズに応え生涯学習の振興に寄与するとともに、本学の研究成果を地域社会に還元するための教育・研修等を行う。</p> <p>現任教育では、看護専門職の資格を持って職業に従事する人々が、看護実践能力を高め、所属組織での役割を果たせるよう教育や研修を行う。</p> |
| 5 実施報告 | <p>1) リカレント教育</p> <p>(1) 公開講座開催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学で一般住民を対象に開催する公開講座を9月に3回実施した。 <p>(2) 出前講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度より、出前講座名称を「出張！ひむかアカデミア」に改称し、宮崎県内市町村及び県内社会福祉協議会に周知し募集を行った。24件の応募があり全て実施した。 ・ホームページにおいても「出張！ひむかアカデミア」を紹介し、実施した内容を実施報告としてホームページに掲載した。 ・令和5年度に向けて要件や掲載内容を見直し、パンフレットを作成した。 <p>2) 現任教育</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、実施時期の変更や実施方法を工夫し、可能な限り実施できるよう努めたが、一部事業では中止や縮小となった。</p> <p>(1) 魅力ある大学づくり・人づくり事業（県補助事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションと県立こども療育センター看護師の相互研修を実施した。 ・新任期看護師や看護教員に対する実践型研修を行った。 ・新任期訪問看護師育成標準プログラム冊子を作成し、関係機関に配付した。 <p>(2) 保健師の力育成事業（県委託事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県段階別保健師研修運営委員会を開催し、各研修についての検討を行った。 ・段階別保健師研修（新任保健師研修、フォローアップ研修、中堅保健師研修）の企画・運営支援を行い、講師やコンサルタントを担当した。また、本学では、キャリアアップ研修（集団・個別指導）を企画・運営した。 ・退職者保健師のコンサルタント登録を行い、各研修に派遣した。 <p>3) 地域貢献等研究推進事業（地域看護職等連携事業）</p> <p>「感染管理スキルアップ研修事業（Ⅲ）－看護職リーダー育成及び新興感染症対策支援－」「地域医療における看護の質向上を目指した実践及び研究の協働事業」「精神科病</p> |

院中堅看護師の新人看護師教育力育成事業」「精神科訪問看護力向上のためのネットワーク構築事業」「緩和ケア病棟における終末期がん看護の実践力向上事業」を実施した。5事業とも新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一部実施時期の変更や方法を変更せざるを得なかったが、医療機関の等の協力を得ながら、実施方法を工夫し実施することができた。

6 評価

1) リカレント教育

「公開講座」は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2年間実施できなかったが、計画とおり9月に実施できた。地域住民からのニーズが高いため、今後は、開催方法や内容等を検討し実施できるように計画していく必要がある。

出前講座である「出張！ひむかアカデミア」は、前年に比べ申込が急増し、地域のニーズに応えることができた。これは、周知方法を改善したことや、ホームページに掲載したことにより周知が高まったことが大きい。依頼のあった講座は、社会情勢の影響もあり教員の偏りもあった。

また、依頼者側の満足度は高く、大学教員の話が聞けることへの県民の期待にも応えることができた。

今後、さらに多くの応募に応えることができるように要件や周知の改善に努めた。事業についての周知、広報活動を強化し、多くの県民の利用を促進していく。

2) 現任教育

県庁関係課、保健所、市町村、宮崎県看護協会、医療機関、各種関係機関・団体等と連携を図りながら実施することができた。専門職業人の育成には、OJTとOff-JTが相互に機能することが有効であり、現場の声を聞きながら教育上の課題を共有し、教員の持つ専門性を活かしながら課題解決に繋がる取組ができた。具体的には、実践型研修や事例検討会の開催、教育プログラムの開発、教材開発、教育支援体制の構築にむけた取組等である。

事業実施においては、事業目的をふまえ、目標の達成に向けオンライン活用など工夫した取組みが行われた。

県民が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、包括ケアシステムの体制整備が進んでいる。地域のニーズに応えるためにも人材確保に務め、看護実践能力を高める人材育成に取り組む必要がある。

2-1)

| 1 | 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 金子 美千代 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---------------------------------|--|-------------------------|---|--|-------|-----|-----|------|-----|---------------------------------|---------------------------|-------------|--------------------------------------|-----|---------------------------------|--------------|-------------|---|-----|---------------------------------|--------------|-------------|----------------------------------|-----|-----|-----|------|---------|-----------------------------|-------------|------------------------|---------|-----------------|-------------|-------------------------|----------|-------------------------|-------------|--------------------|----------|----------------------------|--------------|--------------------|----------|------------------------|-------------|------------------|
| 2 | 事業名等 | 公開講座開催事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 事業組織 | 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター 看護生涯学習部門：金子美千代・川原瑞代 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター 地域連携部門：大館真晴・木添茂子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 事業実施期間 | 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 事業の目的 | <p>1) 公開講座：地域住民に運動と食事に対する正しい知識を啓蒙し、生活習慣と関連した予防法の普及に努め、地域住民の生活習慣を見直す機会となることを目的とする。</p> <p>2) 出前講座：市町村及び社会福祉協議会と連携し、地域独自の課題に応じた出前講座を開催することで、地域住民の健康ニーズに貢献することを目的とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 事業実施報告 | <p>1) 公開講座の実施</p> <p>一般住民を対象とした公開講座を以下の通り実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>日時・定員</th> <th>講座名</th> <th>講師名</th> <th>講座概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>9月1日(木) 13:30-15:00 定員20名</td> <td>①健やかな未来にむけて～婦人科医からのアドバイス～</td> <td>川越 靖之 教授</td> <td>女性の健やかな未来を築くには？婦人科医とざっくばらんに語り合しましょう。</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>9月7日(水) 13:30-16:00 定員25名</td> <td>②健康寿命の延伸のために</td> <td>串間 敦郎 教授</td> <td>骨密度・体組成・握力などの健康身体チェックを行い、その結果をもとに健康講座を行います。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>9月8日(木) 14:00-16:00 定員25名</td> <td>③体験！いきいき健幸体操</td> <td>原村 幸代 助手</td> <td>心身ともに健やかに過ごせる体づくりを目指した健幸体操を行います。</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 出前講座の実施</p> <p>各機関の要望に応じて以下の通り出前講座を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>講座名</th> <th>講師名</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月6日(月)</td> <td>問題行動をとる児童への支援の在り方とストレスの対処方法</td> <td>河野 義貴 助教</td> <td>キッズサポートルーム HGU 上ノ馬場</td> </tr> <tr> <td>7月8日(金)</td> <td>思春期のメンタルヘルスについて</td> <td>川村 道子 教授</td> <td>延岡市立旭中学校 多目的室(オンライン)</td> </tr> <tr> <td>7月12日(火)</td> <td>アンチエイジングに関連した体力向上の方法と実践</td> <td>串間 敦郎 教授</td> <td>宮崎市南部老人福祉センター(集会室)</td> </tr> <tr> <td>7月19日(火)</td> <td>睡眠に関すること(呼吸法・リラクゼーション法を含む)</td> <td>田中 美智子 教授</td> <td>宮崎市南部老人福祉センター(集会室)</td> </tr> <tr> <td>7月25日(月)</td> <td>認知症になっても住み慣れた自宅で暮らすために</td> <td>川村 道子 教授</td> <td>宮崎市立宮崎南小学校(家庭科室)</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 日時・定員 | 講座名 | 講師名 | 講座概要 | 第1回 | 9月1日(木) 13:30-15:00 定員20名 | ①健やかな未来にむけて～婦人科医からのアドバイス～ | 川越 靖之 教授 | 女性の健やかな未来を築くには？婦人科医とざっくばらんに語り合しましょう。 | 第2回 | 9月7日(水) 13:30-16:00 定員25名 | ②健康寿命の延伸のために | 串間 敦郎 教授 | 骨密度・体組成・握力などの健康身体チェックを行い、その結果をもとに健康講座を行います。 | 第3回 | 9月8日(木) 14:00-16:00 定員25名 | ③体験！いきいき健幸体操 | 原村 幸代 助手 | 心身ともに健やかに過ごせる体づくりを目指した健幸体操を行います。 | 開催日 | 講座名 | 講師名 | 開催場所 | 6月6日(月) | 問題行動をとる児童への支援の在り方とストレスの対処方法 | 河野 義貴 助教 | キッズサポートルーム HGU 上ノ馬場 | 7月8日(金) | 思春期のメンタルヘルスについて | 川村 道子 教授 | 延岡市立旭中学校 多目的室(オンライン) | 7月12日(火) | アンチエイジングに関連した体力向上の方法と実践 | 串間 敦郎 教授 | 宮崎市南部老人福祉センター(集会室) | 7月19日(火) | 睡眠に関すること(呼吸法・リラクゼーション法を含む) | 田中 美智子 教授 | 宮崎市南部老人福祉センター(集会室) | 7月25日(月) | 認知症になっても住み慣れた自宅で暮らすために | 川村 道子 教授 | 宮崎市立宮崎南小学校(家庭科室) |
| | 日時・定員 | 講座名 | 講師名 | 講座概要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第1回 | 9月1日(木) 13:30-15:00 定員20名 | ①健やかな未来にむけて～婦人科医からのアドバイス～ | 川越 靖之 教授 | 女性の健やかな未来を築くには？婦人科医とざっくばらんに語り合しましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回 | 9月7日(水) 13:30-16:00 定員25名 | ②健康寿命の延伸のために | 串間 敦郎 教授 | 骨密度・体組成・握力などの健康身体チェックを行い、その結果をもとに健康講座を行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回 | 9月8日(木) 14:00-16:00 定員25名 | ③体験！いきいき健幸体操 | 原村 幸代 助手 | 心身ともに健やかに過ごせる体づくりを目指した健幸体操を行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 開催日 | 講座名 | 講師名 | 開催場所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6月6日(月) | 問題行動をとる児童への支援の在り方とストレスの対処方法 | 河野 義貴 助教 | キッズサポートルーム HGU 上ノ馬場 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7月8日(金) | 思春期のメンタルヘルスについて | 川村 道子 教授 | 延岡市立旭中学校 多目的室(オンライン) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7月12日(火) | アンチエイジングに関連した体力向上の方法と実践 | 串間 敦郎 教授 | 宮崎市南部老人福祉センター(集会室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7月19日(火) | 睡眠に関すること(呼吸法・リラクゼーション法を含む) | 田中 美智子 教授 | 宮崎市南部老人福祉センター(集会室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7月25日(月) | 認知症になっても住み慣れた自宅で暮らすために | 川村 道子 教授 | 宮崎市立宮崎南小学校(家庭科室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 開催日 | 講座名 | 講師名 | 開催場所 |
|---------------|--|------------------------------|---------------------|
| 8月2日 (火) | 「看護覚え書に学ぶ生活科学」 | 小河 一敏 准教授 | 門川町立中央公民館 |
| 8月9日 (火) | 育児力形成支援 | 松本 憲子 准教授 | 小戸地域子育て支援センター |
| 9月22日 (水) | ケアマネジメントの基本 | 佐藤 信人 特任教授 | 門川町社会福祉協議会 |
| 11月1日 (火) | 第8波に備えよう！新型コロナウイルス感染症対策 | 邊木園 幸 准教授 | 高原町総合保健福祉センターほほえみ館 |
| 11月21日 (月) | 転倒予防等の介護予防・運動の方法と実践 | 串間 敦郎 教授 | 川南町生涯学習センター |
| 11月29日 (火) | 知っておきたい！災害への備え | 勝野 絵梨奈 准教授 | 新富町文化会館 |
| 12月7日 (水) | ①メンタルヘルスのセルフマネジメント ②新型コロナウイルス感染症 第8波への備え | ①川村道子 教授 ②邊木園 幸 准教授 | ニューウエルシティ宮崎 |
| 12月8日 (水) | あなた そして私を大切にする“いのちの教育（性教育）”をめざして | 長鶴 美佐子 特任教授 | 飫肥小学校 |
| 12月15日 (木) | ストレス緩和・ストレス対処法について | 葛島 慎吾 講師 | 国富町社会福祉協議会 |
| 12月22日 (木) | 乳幼児健診における技術的助言 | 松本 憲子 准教授 | 宮崎県国民健康保険団体連合会 |
| 1月19日 (木) | 健康な生活はよい睡眠から | 田中 美智子 教授 | 赤江老人福祉センター |
| 1月25日 (水) | 小児領域における感染対策 | 邊木園 幸 准教授 | 宮崎市総合発達支援センターおおぞら |
| 2月7日 (火) | 思春期の心とからだ | 長鶴 美佐子 特任教授 | 放課後等デイサービス 寺子屋 MOMO |
| 2月24日 (金) | 男性の性教育 | 河野 義孝 助教 | 放課後等デイサービス 寺子屋 MOMO |

7 事業の評価

1) 公開講座の評価について

①健やかな未来にむけて～婦人科医からのアドバイス～

受講者のアンケート調査の自由記述には、「HPV ワクチンの現状について確認できた」、「HPV ワクチンについて（孫のことで） どうするか接種を迷っていたので今日のお話とても役に立った」、「産婦人科医の立場から生活習慣、感染症予防につながり広い観点から考えることができた」等が記載されており、満足度は5段階評価の「5：とても満足」が92%であった。

②健康寿命延伸のために

受講者の満足度は5段階評価の「5：とても満足」が94%であり、その理由として、「実践しやすい内容だった」「今の身体について知ることができた」「正しい歩き方、姿勢について理解できた」等が自由記述に記載されていた。

③体験！いきいき健幸体操

受講者の満足度は5段階評価の「5：とても満足」が94%であり、その理由として、「実技でよかった」、「直接教えてもらえてよかった」、「転倒予防のストレッチがわかってよかった」等が自由記述に記載されていた。

これらから、本事業の目的（正しい知識を啓蒙し、生活習慣と関連した予防法の普及に努め、生活習慣を見直す機会となること）は到達したと評価した。

2) 出前講座の評価について

参加者のアンケート結果より、講座内容満足度は全ての講座が5段階評価の「5：満足」であり、また、自由記載には、「できることから実行していきます。とても参考になりました。ありがとうございました。」、「とても分かりやすく、受講生が満足されていました。(参加率も良いです)。座ったままだけでなく、手洗いの演習があったことで、より集中していたように感じました。」、「医学的理論に基づく講演内容は、なかなか受講できる機会がない中で、専門的知識、情報を習得されている看護大学の講師の先生方が得意とされる分野を学ぶ事ができ大変有難く思いました。継続して出前講座を実施していただきたいと思います。」等の記載があり、満足度は高いことが確認できた。今後も、地域の健康ニーズに応じた柔軟な体制を検討し、汎用性の高い事業へブラッシュアップしていく予定である。

2-2)

| | |
|------------------------|---|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 重久 加代子 |
| 2 事業名等 | 緩和ケア病棟における終末期がん看護の実践力向上事業 |
| 3 事業組織 | <p>総括：重久 加代子（宮崎県立看護大学 老年看護学 教授）</p> <p>担当者</p> <p>〔宮崎県立看護大学〕</p> <p>：武田 あゆみ（老年看護学 助手）</p> <p>〔潤和会記念病院〕</p> <p>：小柳 優美子（潤和会記念病院副看護部長兼緩和ケア病棟師長 がん看護専門看護師）</p> <p>：田中 香織（潤和会記念病院緩和ケア看護師 緩和ケア認定看護師）</p> |
| 4 事業実施期間 | 令和4年4月1日から令和7年3月31日まで (対象年度 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで) |
| 5 事業の目的 | <p>がん看護の課題として、質の高いケアを提供するためにケアリング能力を高めることが提唱されている。ケアリングとは対象者の人格を尊重し、人間的な親しみを感じられる援助関係に基づく看護実践であり、看護の核として、熟練した看護師の実践する質の高い看護のなかに見いだされている。</p> <p>そこで、本事業では終末期がん看護の実践力向上を図るために、筆者が提唱した「がん看護特有のケアリングを基盤とするがん看護の構造」に基づいて研修会を開催し、がん看護のケアリング教育を行う。また、研究課題として、終末期がん看護の実践力向上におけるケアリング教育の成果の検証に取り組む。</p> |
| 6 事業実施報告 | <p>1) 終末期がん看護の実践力向上のための研修会 I（令和4年4月～令和5年3月）</p> <p>(1) 研修会を7回開催した（対面と録画視聴）。1回の所要時間は50分であった。研修では寺本松野氏の著書『看護のなかの死』の事例を用いて、実践された終末期がん看護のケアリングの検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目（6/7）：ケアリングとは、がん看護特有の41のケアリングと8構成要素について ・2回目（7/5）：事例①の検討 ・3回目（9/6）：事例②の検討 ・4回目（11/1）：事例③の検討 ・5回目（12/6）：事例④の検討 ・6回目（2/7）：事例⑤の検討 ・7回目（3/7）：研修のまとめ（終末期がん看護のケアリング、ケアリングの理解と学びの程度など） <p>(2) 研修会の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の自己評価表を記載してもらった。 ・研修の初回と最終日に「ケアリング行動質問紙」「看取りケア尺度」等による調査を行った。 |
| 7 事業の評価 | <p>1) 7回の研修会を対面と録画視聴で開催し、参加述べ人数は127人であった。コロナ禍により、研修を開催できない月があったが、研修の質を確保できるように担当者間で調整を図り、録画を視聴する時間や学習への支援を強化する等の工夫により、当初の目的を達成できたと考える。</p> |

- 2) 最終日に、アンケートに基づいて意見交換を行った結果、参加者からはスケジュール調整が難しかった等の意見が聞かれたが、動画視聴を加えたことで、参加率は概ね90%以上であった。
- 3) 学びとしては、「対象者へ全人的な関心を寄せながら、傾聴と双方向のコミュニケーションを図るかかわりを重ねていくことで、信頼関係が築かれていくこと」、「普段何気なく行なっている関わりが、患者とNsの重要な要素であること」、「経験や考えが未熟であるためまだまだ理解できていない部分が多いが寺本氏のような対象者に寄り添い支えられるような関わり大切さがわかった」等が述べられた。

2-3)

| | |
|------------------------|--|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 武田 千穂 |
| 2 事業名等 | 感染管理スキルアップ研修事業(Ⅲ) —看護職リーダー育成及び新興感染症対策支援— |
| 3 事業組織 | 宮崎県立看護大学 代表(講師) 武田千穂 担当(准教授) 邊木園幸 (准教授) 勝野絵梨奈 |
| 4 事業実施期間 | 令和4年4月1日から令和7年3月31日まで (対象年度 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで) |
| 5 事業の目的 | 宮崎県の安全な医療の実現のために、感染管理に関するより専門的な知識及び技術を修得し、感染対策チームのリーダーとしての役割を担い、多職種と連携・協働しながら所属施設の感染管理に貢献できる人材育成および新興感染症対策支援を目的とする。 |
| 6 事業実施報告 | <p>目的に則って「感染管理スキルアップ研修会」を開催した。</p> <p><感染管理スキルアップ研修会概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間：令和4年5月～10月(6か月間、計6回開催) 時間：9時～16時30分 ・場 所：宮崎県立看護大学 講義室 ・対 象：宮崎県の中小規模有床医療機関の看護職 ・定 員：受講要件を満たす看護職30名 ・受講料：無料 ・成 果：研究倫理委員会の承諾を得て研究に着手した。また実施報告書を発刊した(R5.3)。 ・プログラムは、事業目的に準じ「看護職リーダー育成及び新興感染症対策支援」の達成を目指した構成となるように、講義・演習の内容や展開を構成した。 ・講師は、学内教員、宮崎県内で感染管理に従事する医師や感染管理認定看護師(延べ37名)が担い、講義や演習を行った。 <p><研修会の実際></p> <p>感染管理に関する専門知識及び技術を修得し、感染管理の役割を担う看護職リーダーとしての自覚を高め、新興感染症対策を含む組織的な感染管理活動の実践が可能となることを目指した研修プログラムを構成した。</p> <p>研修期間は6か月間であり、計3日間の講義・演習に加え、本研修会での学びを活用した所属施設の課題計画書作成(演習)、各課題に則した3か月間の実践、報告会による全体共有という構成とした。単元毎に、研修プログラムに関するアンケート(無記名)を実施し、その評価を次の授業改善に活かすようにした。</p> <p><出前講座；アウトリーチ型研修></p> <p>感染管理スキルアップ研修に参加した受講者のうち支援を希望する施設を対象に、COVID-19の感染拡大等を想定した病床のゾーニング等の実地研修を想定していたが、受講者からの要望がなかったため、令和4年度は実施に至らなかった。</p> |
| 7 事業の評価 | <p>研修会前後で、全ての単元の理解度得点平均値と重要度得点平均値が高まった。また、アンケートの自由記述からは、本研修での専門知識や技術修得を基に所属施設の課題解決計画を立案し実践に取り組んだことに関する肯定的な意見が聞かれた。また、継続的に感染管理を推進したいという意見が聞かれた。全ての研修会に参加し、報告書を提出するなどの要件を満たした30名に修了証を発行した。これらのことから、所属施設内において、リーダー的役割を担いながら感染管理を推進していく看護職育成に寄与できたと考える。</p> <p>※令和4年度感染管理スキルアップ研修事業(Ⅲ)事業報告書(別冊含)参照 令和5年3月発刊</p> |

2-4)

| | |
|------------------------|---|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 毛利 聖子 |
| 2 事業名等 | 地域医療における看護の質向上を目指した実践及び研究の協働事業 |
| 3 事業組織 | 宮崎県立看護大学:毛利聖子 山岸仁美 坂井謙次 伊尾喜恵 局恵里 山岡深雪 富永かほり 西都児湯医療センター: 清水恵子 野邨つぐみ 川添友梨 木村博人 岩崎千奈 松村真祐美 事例検討会における事例提出者 |
| 4 事業実施期間 | 令和4年4月1日から令和7年3月31日まで (対象年度 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで) |
| 5 事業の目的 | 宮崎県内に於いて地域全体で患者を支える看護の実現に向けて、ナイチンゲール看護論を基軸とした事例検討会および研究支援を行い、県内の看護の質向上を目指す。 |
| 6 事業実施報告 | <p>1) 西都児湯地区をモデルケースとした事例検討会</p> <p>(1)西都児湯医療センターを中心とした事例検討会の開催 事例検討会を下記のとおり6月・11月・3月の3回行った。</p> <p>① 第1回事例検討会 6月25日(土)13時~16時、本学多目的ホールにて対面開催した。 参加者は、西都児湯医療センター各部署師長3名、看護部長1名、看護大教員7名の計11名であった。まず、看護部長より、コロナ禍で医療逼迫している状況だからこそ、リーダーである師長の実践を検討することで看護力向上につなげていきたいと語られ、次いで、各部署師長3名より、それぞれ振り返りたいスタッフとの関わりの場が提出され、検討した。検討結果、それぞれ解決の方向性が定まり、参加者が提出した振り返りレポートには、「スタッフに自分の思いをもっと表現する」等、その内容が記載されていた。</p> <p>② 第2回事例検討会 11月26日(土)13時~16時、本学多目的ホールと、西都児湯医療センター各部署をオンラインにてつなぎ、オンライン開催した。参加者は、西都児湯医療センター9名、看護部長1名、看護大教員7名であった。また公開講座参加者より事例検討会参加希望があり、西都児湯医療センター看護部長と協議し、参加していただくことになった。西都病院より4名(オンライン参加)、南部病院6名(本学に来学し参加)の参加があり、計27名の参加があった。患者に必要な関わりを検討したいと2事例が提出され、2グループに分かれて検討した。西都病院や南部病院の参加者も検討会にグループ討議に参加し、活発な意見交換となった。西都病院、南部病院の参加者アンケートでは、全員が「満足」または「非常に満足」と回答しており「患者が訴える症状を疾患だけでなく、科学的に心理面からもアプローチすることで患者をより深く知ることができた」等、全員が学びを記述していた。また参加した学びを自施設に活かせそうかの間には、「2事例をとおして学んだことを実践したい」「事例検討会を開催するには様々な課題があると思うが、日々のカンファレンスで語る時間を多くもちたいと思った」等の回答があった。</p> <p>③ 第3回事例検討会 3月25日(土)13時~16時、西都児湯医療センターにて対面開催した。参加者は、西都児湯医療センター9名、西都児湯医療センター看護部長1名、看護大教員5名、計15名の参加であった。関わりに困難を感じた2事例が提出され、グループには分かれず、全参加者で2事例を検討した。アンケートでは参加者全員が「非常に満足」または「満足」と回答しており、満足度が高かった。学びでは、「対象の回復スピードの違いを年齢だけでとらえていた部分があり、患者の身体状況や気持ちなど事実からとらえることを再認識した」等、参加者全員が学びを記述していた。</p> |

(2) リーダー層の育成

各部署のリーダーがファシリテータとして自立して進めていけることを目的とし、第2回、第3回の事例検討会は各部署のリーダーが司会進行を行い、事例検討会後に振り返りを実施した。

参加者と同じ目線で一緒に学んでいる段階なので、参加者が実践につながる方向性をつかめるようファシリテータとしての力をつけていくことが課題、といった内容の発言があった。リーダーとして看護チームの実践力が向上したと感じるとの発言があり、現在、各リーダーが、今年度の事例検討会を経て看護チームの実践力がどのように向上したか、事実をふまえて整理し、次年度の方向性をレポートに記述しているところである。また、リーダー層のみの事例検討会として、第1回事例検討会は、各部署の看護師長3名と看護部長、本学教員とで検討会を実施した。各部署師長からそれぞれ、スタッフとの関わりの場面が提出され、検討を行った。事例を検討することで、スタッフへの思いを表現することの重要性等が検討された。

2) 県内の看護の質向上に向けた公開講座の開催

9月10日(土)に公開講座「事例検討会で変わる施設の看護力～ナイチンゲール看護論を軸にして～」をハイブリッド開催した。県内の103の医療機関に案内し、9施設28名の参加申し込みがあった。参加申し込み施設の内訳は、【宮崎東諸県医療圏】4施設、【都城北諸県医療圏】2施設【日南串間医療圏】1施設、【西諸医療圏】1施設、【西都児湯医療圏】1施設、である。新型コロナウイルス感染拡大の影響で最終的に6施設21名の参加となった。(2施設はオンライン参加、4施設は対面参加。)

内容は、【実践報告】と【自由討議】の2部構成である。本学教員の毛利が進行をつとめ、西都児湯医療センター看護部長、師長・副師長6名が演者となり、取り組んできた3年間の事例検討会について、1年目、2年目、3年目の検討会において、それぞれの年度で特に看護師の対象への見つけ方が変化し対象の健康状態の好転がみられたと感じる事例検討の概要と学びが紹介され、3年間の事例検討会がどのように発展してきたのか発表された。自由討議では各施設から事例検討会を積み重ねるためのコツについて討議を行った。参加者からは「その人を細胞レベルで理解し知ろうとすることで視点が変わり、患者看護師関係の相互作用で好転していく様子が伝わり感動した」「看護の原点を見たような気がした」などの声が聞かれた。

3) 研究発表

西都児湯医療センターの看護師の対象への見つけ方が変化し、対象の健康状態の好転がみられた事例について、西都児湯医療センター看護部長、事例提出した看護師長を共同研究者とし、「(仮)事例検討会による学びとその後のチームの変化～初めて事例検討会に取り組んだ組織の取り組みより～」のテーマで実践報告として論文化をすすめている。データ収集は終了し、令和5年度に完成させる予定である。

7 事業の評価

1) 西都児湯医療センターを中心とした事例検討会

3回で延べ53名が参加した。いずれも対象理解が深まり実践の方向性を定めることができたことで参加者の満足度が高かった。第2回検討会では、西都病院や南部病院からの参加もあった。参加者からは、「他病院の方の意見もきけて参考になった」と感想があり、活発な意見交換ができた。西都病院や南部病院参加者からは「事例検討がすすむにつれ、患者の背景がみえてきた」等、事例検討会を通して対象理解が深まることを実感する記述が多くみられた。また、「学んだことを実践したい」「日々のカンファレンスで語る時間を多くもつ」等、自施設での看護実践やカンファレンスに活かそうと考える記述も多くみられ、参加者の看護実践力向上に向けて取り組む一助となっていたことが伺えた。また、リーダー層の育成を目的に、今年度より事例検討会の司会進行をリーダー層が実施した。リーダー層より、方向性をつかめるようファシリテータする力をつけていきたいとの言葉が聞かれた。ファシリテータとして、リーダー層のもてる力が発揮されるような取り組みを継続する必要がある。他施設の参加について、公開講座に西都医療県内の1施設の参加があった。今後は転院症例など地域内での継続看

護につながることを目指し、西都児湯医療センターの看護部長から他施設へ事例検討会への参加を呼びかけ、共同開催を目指していく。

2) 県内の看護の質向上に向けた公開講座の開催

アンケート結果では、全員が「満足」と回答しており、非常に満足度が高かった。西都児湯医療センターの取り組みについて患者の変化と看護師の変化を評価している記述等もあり、継続的に事例検討会を取り組む意義を評価する記述もみられ、事例検討会の意義を確認する場となった。3施設が、事例検討会の開催に向け大学との連携を希望した。しかし、コロナウイルス感染症による医療逼迫が続き集合研修の難しさもあり、次年度の要請があった施設は1施設であった。「公開講座」は、県北の医療圏域機関からの参加がなかったことや、大学からのアクセスの悪い医療圏にある病院からの参加方法の改善が課題であり、参加方法や案内方法を工夫しながら少しずつ取り組みの輪を拡げていきたい。今後アドバイザー派遣事業へと繋いでいき、これから事例検討会を導入する病院が、開催の雰囲気や運営方法など具体的なイメージが膨らみ実施に繋がるように調整を行っていくことが必要である。

3) 研究発表

論文化を進めているが、今年度投稿には間に合わなかった。令和5年度投稿に向けて論文化を進めていくことが必要。

<今後の課題と方向性>

- ・西都児湯医療センターの事例検討会については、検討会を重ねることで看護実践力向上につながってきており、今後はリーダー層のファシリテータとしての自立を支えることが課題である。今後、西都児湯医療センターの事例検討会の継続開催を支援しつつ、事例検討会前後のリーダー層と本学教員との打ち合わせ時間を設けることで、ファシリテータとして自立を支援する。
また、他施設からの事例検討会参加要請に応じて、参加できるように支援し、参加施設の輪を広げる。
- ・アドバイザー派遣事業要請があった1施設について、事例検討会の運営方法等のイメージが膨らむように打合せを実施し、事例検討会開催を支援する。開催後は、アンケートや振り返りレポートを通して、検討会の成果を評価できるように支援する。
- ・研究について論文化をすすめ、投稿する。

2-5)

| | |
|------------------------|---|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 川村 道子 |
| 2 事業名等 | 精神科病院中堅看護師の新人看護師教育力育成事業 |
| 3 事業組織 | 川村道子(宮崎県立看護大学 教授) 葛島慎吾(宮崎県立看護大学 講師) 池間功一(宮崎県立看護大学 助手) 県内精神科病院(精神科病棟を有する医療関連施設)看護部長及び教育師長 |
| 4 事業実施期間 | 令和3年4月1日から令和5年3月31日まで (対象年度 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで) |
| 5 事業の目的 | <p>令和元年度から、県内の精神科病院新人看護職員への臨床判断力向上に寄与できる研修プログラムを検討し、研修会を実施した。研修会終了後、研修生を派遣した施設の管理職へのインタビューを通して、新人看護師の臨床判断力の向上だけでなく教育の質向上のための組織改革が課題として挙がり、新人教育担当者への研修のニーズが把握された。その中で、新人教育担当者が新人教育を行う過程でメンタルダウンを来たして休職に追い込まれる事例もあるということも把握された。以上を踏まえ、新人看護職員の成長を支えることに耐えうる土壌を作り、研修プログラムを自施設で実施できる人材を育成することができれば、数少ない新人看護職員の育成を各施設の状況に合わせて確実に実施でき、新人看護職員の離職防止にもつながるのではないかと考えた。また、新人教育担当者の教育力が向上することにより、その役を担う世代にある中堅看護師のやりがいが高められると考えた。</p> <p>そこで、本事業は、精神科病院中堅看護師の研修会を開催し、新人看護師教育力が向上することを目的とする。</p> |
| 6 事業実施報告 | <p>1) 令和2年度まで実施した精神科病院新人看護職員への臨床実践力育成事業で総括された内容及び、同テーマに関する全国での取り組みの実態や研究の動向を把握したうえで、精神科病院中堅看護師の新人看護師教育力向上に寄与できる研修プログラム骨子を作成し、令和3年度に実施した。令和3年度の事業評価を踏まえ、研修内容を下記の通りとした。</p> <p><第1回目> テーマ:精神科病院において新人看護師を教育するうえで基盤となる看護力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人間とは何か」「病とは何か」を踏まえて精神の病を理解する ・精神の病に関する理解を踏まえて、精神看護の原則や方法について理解する <p><第2回目> テーマ:精神科病院において新人看護師を教育するうえで基本的な考えを学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の原理を理解する ・精神科臨床で新人看護師を教育する上でのポイントを理解する <p><第3回目> テーマ:精神科病院において新人看護師を教育するうえでの基本的な考えを基盤に、実際の教育現場を省察する力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な教育場面を取り上げ、どのような視点で振り返ることが教育力向上につながるか演習を通して体験する ・教育場면을省察するためのポイントを理解する <p>また、令和3年度の研修参加者アンケートには、事例や教育に関する参加者同士の意見交換の要望があった。そこで、令和4年度の研修プログラムでは、事例への看護や事例に関して新人看護師にどのように教育するかといった内容の意見交換を追加することとした。</p> |

- 2) 研修参加者に実施評価をしていただくための質問項目を、事業組織内で検討後アンケート用紙を作成した。なお、ハイブリッド開催の際には、Survey Monkey を使用してオンラインアンケートを実施した。アンケート結果は精神科病院中堅看護師の新人看護師教育力向上プログラム開発に使用するため、宮崎県立看護大学研究倫理委員会へ申請を行い、承認を得た（承認番号：03-03号）。
- 3) 2)でプログラムを策定し、下記の日程で研修会を実施した。
 - <第1回目>令和4年7月7日(木)10:00~15:00
開催場所:宮崎県立看護大学 多目的ホール
参加人数:23名
 - <第2回目>令和4年10月12日(木)10:00~15:00
開催場所:宮崎県立看護大学 多目的ホールと Microsoft Teams のハイブリッド開催
参加人数:22名(うち4名オンライン)
 - <第3回目>令和5年1月16日(木)10:00~15:00
開催場所:宮崎県立看護大学 多目的ホールと Microsoft Teams のハイブリッド開催
参加人数:22名(うち4名オンライン)
- 4) 一般社団法人日本看護研究学会 第27回東海地方会学術集会にて本事業の研修プログラム評価に関して発表した。
- 5) 令和5年度以降の精神科病院中堅看護師を対象とした研修プログラムの実施について、日本精神科看護協会(宮崎県支部)の研修として引き継いだ。

7 事業の評価

年度当初は全3回の研修会を対面での実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、第2回、第3回はハイブリッドでの開催を余儀なくされた。リッカート尺度を用いたアンケートからは、「目標到達度」の問いに、“非常に高い”“高い”が全3回の平均91.03%をと多数を占めた。また、「研修内容が新人看護師教育に役立ちそうか」との問いに、全3回平均で“非常に役立つ”“役に立つ”が98.48%を占めた。さらに、自由記述においても、「普段働く中で解決できていなかった問題をこの研修で解決策を見出せました」「少しでも多く新人さんへの指導ができるように関わっていきたいと思った」など前向きな意見が多く記載されていた。

また、研修会では対面やオンライン上で、事例を基に活発にグループディスカッションも行うことができ、他病院の看護師同士の交流の場となり、県内の精神科病院看護師が互いに情報共有を行うなど刺激し合う場にもなっていると評価できた。

以上のように、本事業内容は継続の意義があるものと評価できたため、日本精神科看護協会(宮崎県支部)の研修として引き継ぐこととなっている。また、事業の過程における参加者との意見交換等から新人看護師育成のための土壌づくりおよび組織全体で人材育成を行うことに困難さがあるという新たな課題がみえてきた。これらを踏まえ、次年度は看護師の教育体制や教育内容等を検討する立場にある、看護管理者の人材育成力支援を行う新事業を行っていく計画である。

2-6)

| | |
|------------------------|---|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 葛島 慎吾 |
| 2 事業名等 | 精神科訪問看護力向上のためのネットワーク構築事業 |
| 3 事業組織 | 葛島慎吾 (宮崎県立看護大学 講師 精神看護専門看護師) 川村道子 (宮崎県立看護大学 教授) 梅原敏行 (訪問看護ステーションおあふ:宮崎市 代表取締役 精神科認定看護師) |
| 4 事業実施期間 | 令和3年4月1日から令和6年3月31日まで (対象年度 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで) |
| 5 事業の目的 | <p>近年、「精神障害者を地域で支える」という考えに基づき、国や本県の施策が整備され、精神障害者の地域生活を支える取り組みが進められている。このうち、精神科訪問看護は重要な支援の1つとされ、体制の整備が進められている。しかしながら、精神科訪問看護を実施する看護師は、自己の看護実践を他者と共に評価・発展させる機会が少ないといった困難さを抱えている。特に本県は人的資源や交通網が不十分であることが看護師の困難さにつながっているという問題がある。この問題の解決においては、精神科訪問看護を実施する看護師同士のネットワーク構築が有効であると考え。なぜなら、地方である本県は地元出身者が多く ICT の利活用等の工夫により凝集性が高いネットワーク構築を可能とするからである。</p> <p>以上を踏まえ、本事業は、本県の精神科訪問看護を実施する看護師を対象とし、研修プログラムを軸にして、県全体で看護師個々の精神科訪問看護における臨床実践力(以下「精神科訪問看護力」)を高め合うネットワークの構築を目的とする。</p> |
| 6 事業実施報告 | <p>1) 現場の状況把握</p> <p>新型コロナウイルス感染症蔓延による BCP レベルおよび本県での医療非常事態宣言の影響で、予定通りに精神科訪問看護へ同行することが難しかったが、2月に4ケースの訪問同行ができた。訪問同行では、看護師が利用者個々の生活の仕方にユニークさがあつたとしても、看護師の価値は一旦置いておき、相対する姿勢がみられた。一方で、看護師から看護実践の背景となる理論や利用者の変化の意味に関する整理が難しいといった声が聞かれた。</p> <p>2) 研修プログラム実施及びネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年7月23日(土)に「精神科訪問看護における困難な状況とその対処等について施設を超えて共有する」をテーマに研修会を開催した。参加者は7名であった。 令和4年10月29日(土)に「地域で生活する精神障害当事者や家族および周囲の人々の理解・対応に関して検討する」をテーマに研修会を開催した。参加者は6名であった。 令和5年2月26日(日)に「精神科訪問看護における看護実践力を高める看護師間の交流の推進」をテーマに講演会を開催した。講師は、福岡県立大学精神看護学教授の村方多鶴子先生に依頼した。参加者12名であった。 <p>3) 研修プログラム及びネットワーク活用方法の妥当性評価</p> <p>1、2回目の研修参加者が少人数であったために、研修後、研修プログラムが臨床実践力向上につながっているかという点だけでなく、精神科訪問看護力を高め合う取り組みの現状などについて、参加者に直接聞き取りを行なった。研修には、県央・県西・県北から精神科訪問看護を実施する訪問看護ステーションの管理者およびスタッフの参加があつた。参加者からは、下記のようなことが語られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問看護ステーションのスタッフ：日々の看護実践に困難さを感じており、施設外にも相談したいと思うが誰に相談したら良いかわからない。 訪問看護ステーションの管理者：日々の看護実践に困難さを感じることはあるが、独自の連 |

絡システムや心理社会的技法を活用しながら施設内で解決できている。施設同士が経営上の競争相手ということもあるので、つながることが難しい部分もあるのではないかと。

以上より、精神科訪問看護を実施する訪問看護ステーションのスタッフ・管理者ともに、日々の看護実践への困難さを感じてはいるが、管理者は経営の観点から施設がもつ情報や独自の取り組みを施設外に出したがること、訪問看護ステーションは病院と比べてスタッフ数が少ない組織であるため管理者個人の考えが施設全体の考えとして反映されやすく施設間のつながりを阻んでいること、看護実践において対象理解というよりは心理社会的技法など方法論が重視されていること、等が浮き彫りになった。

これらを受け、研修プログラム3回目の講演会では、精神科訪問看護における施設間連携の実状を盛り込むよう内容を修正した。講演会には、県央・県西・県北で従事する看護師の参加があった。講演会後の参加者アンケートでは、「社会資源の利用や福祉に関する知識も必要なので知識不足でどう動いたらよいかわからないケースもある。今後も各ステーションさんと情報交換する機会があれば良い」「利用者に寄り添い、思いを一番に考え、少しでも地域で生活できるように主治医等と連携をとり支援していきたいと再認識できた」「宮崎市全体がまだ精神疾患の方の地域での見守りの理解が進んでいない…中略…今後正しい理解が広がり、看護師さんのネットワークが進むことを願います」などの意見が得られた。

7 事業の評価

今年度の活動を通して、宮崎県の精神科訪問看護を実施する看護師は、他施設とはつながりにくい状況にありながらも、個人レベルでは日々の看護実践に困難さを感じている者もいること、看護実践の困難さについて一緒に考える機会のニーズがあることが浮き彫りになった。これらより、当初の計画通り、精神科訪問看護力を高めるための知識・技術等を確認し、看護を行うときの基本となる様々な概念等を共有する研修プログラムが必要であることが確認できた。

以上を踏まえ、次年度は、宮崎県の看護師同士が精神科訪問看護力を高め合うことを目的とした研修プログラムを継続して実施していく。また、研修プログラムの実施にあたっては下記に留意する必要があると考える。

- ・ 対象を本県で精神科訪問看護を実施する看護師に拡大する。
- ・ 単回の参加を可能とする。
- ・ 対面とオンラインのハイブリッド開催ができるように整備する。
- ・ 各施設の情報や経営の話ではなく、精神科訪問看護の利用者や家族、多職種連携について考える内容にする。

次年度の活動の中で、事業終了後の精神科訪問看護力を高め合うネットワーク構築のあり方を検討していく予定である。

3. 資格認定看護教育部門

令和4年度センター部門報告

| 1 部門名 | 資格認定看護教育部門 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---|------|------|------|------|--|------|------|------|------|------|----|-----|---|---|---|------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 2 部門職員 | 部門長 邊木園 幸 副部門長 武田 千穂 部員 杉田 加代子、福田 真弓 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 実施期間 | 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 部門の概要 | 1) 感染管理認定看護師教育課程の開講 (教育目的) (1) 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、専門的知識と高度な技術に基づいて医療関連感染の予防と管理を実践できる能力を育成する。 (2) 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる能力を育成する。 (3) 医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる能力を育成する。 (教育期間) 令和4年7月～令和5年2月 (定員) 15名 2) 資格認定看護師教育課程のあり方検討会の開催 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 実施報告 | 1) 感染管理認定看護師教育課程について 新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)の感染拡大が継続する中、6期生17名を迎えて7月に開講した。大学のBCPに準じて原則対面授業を行った。基準カリキュラムに遵守して教育課程の運営を行い、非常勤講師等の協力を得て630時間の全授業等を終え、15名が修了(2名休学)した。 (1) 入学者選抜試験及び結果の概要 令和4年度研修生について 入学者選抜試験：令和3年12月11日(土) 合格発表：令和3年12月20日(月) 入学前ガイダンス：令和4年4月20日(水) Teamsを使用してオンライン開催 入学者17名(県内6名、県外11名) 表1) 試験結果 <table border="1" data-bbox="316 1572 1168 1736"> <thead> <tr> <th></th> <th>募集定員</th> <th>志願者数</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> <th>実質倍率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県内</td> <td rowspan="3">15名</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>6</td> <td rowspan="3">1.28</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>23</td> <td>23</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">実質倍率＝受験者÷合格者</p> | | | | | | 募集定員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 実質倍率 | 県内 | 15名 | 8 | 8 | 6 | 1.28 | 県外 | 15 | 15 | 12 | 合計 | 23 | 23 | 18 |
| | 募集定員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 実質倍率 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 県内 | 15名 | 8 | 8 | 6 | 1.28 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 県外 | | 15 | 15 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 23 | 23 | 18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (2) 教育について ◆ 教育期間 令和4年7月1日(金)～令和5年2月22日(水) ◆ 授業時間 全20科目360時間、学内演習90時間、臨地実習180時間 ◆ 科目試験 令和4年10月7日(金)～10月18日(火) ◆ 臨地実習期間 令和4年11月7日(月)～12月13日(火) ◆ 臨地実習報告会 令和4年12月23日(金) ◆ プログラム発表会 令和5年1月24日(火) ◆ 修了試験 令和5年2月1日(水) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(3) 臨地実習について

9月2名の学生が病気療養等のため休学となり、15名が臨地実習を行う。

臨地実習での県外移動等のについては、行動制限の緩和に伴い実習期間中の離県が可能となり、研修生もストレスの増加は避けることができ、全員到達目標を達成して実習を終えた。

表2) 実習施設と研修生配置数の一覧

| 実習施設名 | 研修生数 |
|-------------------------|------|
| 国立大学法人 宮崎大学医学部附属病院 | 2人 |
| 宮崎県立宮崎病院 | 2人 |
| 宮崎市郡医師会病院 | 2人 |
| 社会医療法人同心会 古賀総合病院 | 2人 |
| 独立行政法人地域医療機能推進機構 宮崎江南病院 | 2人 |
| 独立行政法人国立病院機構 都城医療センター | 1人 |
| 高千穂町国民健康保険病院 | 2人 |
| 国立大学法人 大分大学医学部附属病院 | 2人 |

(4) 運営について

運営にあたっては、教員会5回と入試委員会5回、実習指導者会議2回を開催した。

授業科目は、全て研修生による授業評価(5段階評価リッカートスケール)を行い、全科目及び実習等の満足度の平均は4.3点であった。非常勤講師へは、毎回の出席カードに記載された研修生コメントの一覧を送付し、授業改善へ役立ててもらった。非常勤講師からは「研修生の意見をもらえて次回授業の参考になった」「授業のフィードバックはとても有り難い」等の意見があった。

令和4年度は9月に研修生2名が病気療養等のため休学となった。休学中は研修生と連絡をとりメンタル面のサポートを行うとともに、所属施設の看護部長等と相談し支援を継続していただくことを調整した。その結果、1名は令和5年度復学となり、1名は退学となった。

研修生への個別指導対応を充実させるために、教員ごとに担当する研修生を決め、継続した支援・指導を行った。研修生からは「親切・丁寧に指導してもらえた」「きつい中でも楽しさが感じられた」等の意見があった。

(5) 令和4年度の取組について

- 令和5年度研修生募集に向けてオープンキャンパス開催

日 時：令和4年8月4日(水)10時～12時

場 所：附属図書館2階 看護研究・研修センター 多目的ホール

方 法：対面とオンラインのハイブリッド形式

参加者数：25名(対面10名、オンライン15名；県内5名、県外20名)

研修生との交流時間を設定し、研修生活等について活発な意見交換が行われていた。オンライン参加者については、オープンキャンパス後に、個別相談を行い出願に関する疑問に対応した。

その結果、令和5年度入学者選抜においては、開講以来最大の31名の出願があった。

- 教育課程修了後に実施される認定審査に向けて、認定審査模試を6回行い専門知識の定着と出題傾向の理解に取り組んだ。模試を繰り返すことで、模試結果も段階的に向上していった。

2) 資格認定教育課程あり方検討会について

今後の資格認定教育課程のあり方について、会議を2回開催した。また、A課程からB課程

へ移行し開講している教育機関へ視察に行き、情報収集及び本学における課題を検討した。

6 評価

新型コロナウイルス感染症対策の変化に伴い、令和4年度は行動制限が緩和され、日本看護協会の基準カリキュラムに準じて、全ての科目・実習・演習を対面で円滑に実施することができた。研修生指導を担当制にしたことで継続的な個別支援ができ、感染管理認定看護師に求められる役割につながる専門的能力は十分に修得できたと考える。令和5年度に向けて、オープンキャンパスをハイブリッド形式で開催したことは、参加者数の増加、出願者の増加につながったと考える。開催方法の変更のみでなく、内容に研修生との交流を組み込んだことにより、教育課程に在籍期間中の生活や学習について具体的なイメージが広がったと思われる。今後の資格認定教育課程については、関係機関と継続審議を行っていくが、B課程を開講する場合は、今回のオープンキャンパスの経験を活用していきたい。

4. センターが管轄するプロジェクト

1) 魅力ある大学づくり・人づくり事業

4-1)

| | |
|------------------------|---|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 小田 清光 |
| 2 事業名等 | 魅力ある大学づくり・人づくり事業：看護師等の県内定着促進事業 |
| 3 事業組織 | <p>* 県医療政策課</p> <p>* 看護師などの県内定着促進事業運営委員会：就職対策委員会（教員：中村千穂子、壹岐さより、川村道子、濱寄真由美、長坂猛、毛利聖子、橋口穂奈美、大野理恵、事務局：矢野雅博、黒木和代、川中菜月、小田清光）</p> |
| 4 事業実施期間 | 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで |
| 5 事業の目的 | 県立看護大学を核として、県内どこでも専門性の高い看護を受けることができる体制づくりを進めるため、卒業生等の県内就職率 50%を目標とするとともにUターン支援を強化し、少子高齢化に対応した地域づくりの推進を図る。 |
| 6 事業実施報告 | <p>1) 就職相談室の環境整備</p> <p>① 採用に関する情報及び就職情報ファイルや進学等の情報管理～前年度・現年度</p> <p>② 「就職採用試験受験結果報告書」の管理～平成18年度から令和4年度分保存</p> <p>2) 就職情報の収集・提供に関すること</p> <p>① 採用に関する新着情報等の広報～県内求人情報並びに九州管内分を主に掲示するとともに、主要な県内医療機関情報は就職対策委員長を通じてメールにて送信</p> <p>② 県内医療機関の採用日程・病院局ナースガイダンス・インターンシップ日程の広報→県内医療機関並びに自治体保健師採用日程について、掲示するとともに、就職対策委員長を通じて学生へ周知を図った。学生向けの就活イベントの病院局ナースガイダンス&バスツアーは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止措置のため開催中止となった。個別での病院説明会・インターンシップの参加、病院局との対面ナースガイダンス(2/25)、その他にも3年次生は自主的に業者による県内医療機関合同就職説明会(3/19)にも参加</p> <p>3) 学生の就職支援・相談に関すること</p> <p>① 就職ガイダンス・看護実践を語る会 就職ガイダンス4年次(4/6)3年次(7/19)、2年次(12/16)、1年次(12/20)、看護実践を語る会の動画視聴(12/21)、4年次生の就職活動報告会(12/21)</p> <p>② 模擬面接・小論文講座 模擬面接：県内外を問わず学生の就職・進学希望者に対して就職対策委員会にて実施、個別・集団面接4～7月、5回：51名、他、個別にて教員も実施。 小論文講座：小論文講座の講義受講後、4～5月、5回実施：62名（大館教授） 助産師進学者に対して助産師養成進学者への説明会ならびに個別での模擬面接（濱寄准教授）を実施</p> <p>③ 県内医療機関合同就職説明会・意見交換会 今年度は3年ぶりにブースでの対面方式にて12月22日開催。新型コロナウイルス拡大により、対面20施設、動画提供7施設、資料提供25施設となった。動画は1、2年生も視聴するよう案内した。また、説明会終了後15施設が参加し意見交換会を行った。</p> <p>④ 学生からの就職相談の対応</p> |

相談者:365名、就職相談室利用者:488名

⑤ 相談内容の記録や関係者への報告

就職対策委員長・中村准教授、教務学生担当者へ報告

4) 既卒者・Uターン者の就職支援に関すること

学内並びに同窓会ホームページPRをリニューアルするとともに学外からアクセスできるように整備している。Uターン者の相談件数は、教員の相談0件、相談員3件であった。本年度はUターン就職アンケートを未実施であるが、過去のアンケート結果は学部生に周知を行った。

5) 医療機関等の来学に関すること

職員採用に関する情報や卒業生の活躍状況を収集した。昨年度は新型コロナウイルス拡大により県内外からの来学をお断りしていたが、今年度は来学を受け入れたため、延24施設(県内10施設:県外:14施設)と昨年度と比較して倍増した。来学時に各種情報の収集を行った。

7 事業の評価

令和4年度学部生の県内就職者は42名、県内定着率は48.8%で目標値を僅かに達成出来なかった。その原因に新型コロナウイルス感染症拡大防止措置にて県内医療機関や施設での実習の機会やインターンシップや病院見学会の機会の減少があったと思われる。このような状況だからこそ、県外よりも家族や知人の住む県内といった地元志向が高まったことも考えられるが僅か及ばなかった。各病院工夫を凝らしてのWEB対応や少人数での個別対応などもあるものの学生の自主的な就職活動には個人差が見られた。学生全体の集団向けと個人に合わせて細やかな情報を発信することが必要である。4名と若干数ではあるが、県外出身者が県内就職を選択していた。大学生活での出会いや体験を通じて宮崎県内での就業を選択していた。今後も、コロナ患者の動向を注視しつつ学生の安心かつ安全を担保しての就職支援や県外出身者の宮崎県内への就業促進を継続する必要がある。

看護実践を語る会や就職ガイダンス、4年生就職体験を語る会といった学内の就活イベントでは、感染症対策に万全の注意を図り実施できた。県内に勤務する看護職の卒業生や県内就職内定者である身近な在校生による体験談や意見交換、交流を通じて県内就業の魅力をアピールできた。今後も卒業生・在校生による就活サポーターは継続していく。

低学年向けの就職ガイダンスを開催し、卒業生の就職先やUターン者アンケートの結果の一部を報告し県内就職への動機付けを行った。新型コロナウイルス感染症の拡大防止措置により、県内医療機関の対面によるインターンシップ・病院見学会等の中止や個別対応、WEB変更等へ生じていることから、学生ひとり一人の希望に対応したきめ細やかな情報提供をタイムリーに発信することが大切であった。

進学者が14名いた。今後、保健師、助産師、養護教諭等へ進む学生に対しても就活学生と同等に教員と密な連携を図り細やかな支援体制を強化する必要がある。

今後も、大学・県内医療機関・看護協会等、関連諸団体等と連携しながら、看護大生が率先して県内就職するためにもアイデアを出し合っって県内就職に繋げていけるよう検討を継続する。

Uターン支援に関しては、相談室では3名の利用があった医療機関からの情報を収集し蓄積していく。同窓会並びに教員やナースセンターと連携を図り、卒業生が仕事の悩みや転職などの相談の窓口として母校の資源を有効活用できるように情報発信し再就職支援も継続する。

4-2)

| | |
|------------------------|--|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 川原 瑞代 |
| 2 事業名等 | 地域志向の看護力を備えた訪問看護師養成事業 「地域志向の看護力育成事業」 ※地方創生事業「魅力ある大学づくり・人づくり事業」 (令和2年度～令和4年度) |
| 3 事業組織 | 宮崎県立看護大学 (小野美奈子、川原瑞代、金子美千代、中角吉伸、宮ゆうこ) 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター (木添茂子) 宮崎県医療薬務課 (鵜 香織、野尻大樹、黒岩由衣) 宮崎県看護協会・在宅支援室 (橋口栄子※2022.10まで、佐伯綾子、荒川文子) 県内訪問看護ステーション |
| 4 事業実施期間 | 令和2年4月1日から令和5年3月31日まで (対象年度 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで) |
| 5 事業の目的 | 1) 県内看護師に対する実践型研修により、地域を志向し、地域包括ケアの中で力を発揮できる看護師を育成する。 2) 新任期訪問看護師が、安定して在宅療養支援ができる実践力向上のためのプログラムを開発する。 |
| 6 事業実施報告 | 1) 県内看護師に対する実践型研修の実施 ①看護管理者の課題解決プロジェクト研修 ・対面開催を予定したため、新型コロナウイルス感染症の影響を受け実施できなかった。 (令和5年5月27日に県外講師招聘し開催予定) ②看護教員の訪問看護研修 ・県内看護師養成所の2名の看護教員が参加した。 内容・実施日：講義(オンデマンド)、訪問看護9/14(1名)、2/21(1名)、交流会3/27(5名) ③新任期訪問看護が所属する訪問看護ステーションと県立こども療育センター交流研修 ・訪問看護ステーション間の相互研修を予定していたが、「小児看護」のニーズが高く訪問看護ステーションとこども療育センター看護師の相互研修を実施した。 参加者：訪問看護ステーション6名、県立こども療育センター2名 実施日：訪問看護ステーション研修(2/27・28、3/12・14) 県立こども療育センター研修(3/15・16、3/22・23) 2) 新任期訪問看護師育成プログラムの開発 ①宮崎県訪問看護師養成研修体系に添った研修の評価 ・訪問看護推進検討会(県看護協会主催)に参加し研修評価を行った。 開催日：4/14、9/29、1/19 ②新任期訪問看護師交流会 ・新卒訪問看護師育成研修打ち合わせ会・交流会(県看護協会主催)に参加し、育成状況の把握および評価を行った。 開催日：4/23、10/8、2/4 ③新任期訪問看護師の臨床研修及び先進地視察研修等の開催 ・新任期訪問看護師の臨床研修の評価を行った。 (R4年度は、卒後2～3年目及び卒後1年目の臨床研修を県看護協会が実施) ・先進地視察研修 県外研修を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。 ④新任期訪問看護師育成標準プログラムの開発 ・新任期訪問看護師育成標準プログラム冊子を作成し、関係機関(県、県看護協会、 |

訪問看護ステーション等)に配付した。

3) 在宅看護に係わる調査・研究

①学会参加

・第12回日本在宅看護学会(オンデマンド)：新任期訪問看護師2名参加

②研究活動

・研究支援：新卒3年目訪問看護師の研究支援を行った(年3回)。

・学会発表等：日本在宅看護学会第12回学術集会1編、宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報(研究報告)1編

③訪問看護師が働き続けられる環境づくりに関する調査研究

・県内訪問看護師に実施した調査結果を報告書にまとめ、関係機関(県、県看護協会、県内全訪問看護ステーション)に配付した。

4) 今後の訪問看護人財育成に向けた推進体制づくり

①「宮崎県訪問看護推進協議会」に委員として参加し協議・情報共有を行った。

②令和5年度からの新任期訪問看護師の育成体制や宮崎県訪問看護師養成研修体系に基づく研修とのあり方について県、県看護協会、関係機関との協議を行った。

7 事業の評価 (令和2年度～令和4年度)

1) 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、計画の中止や変更を余儀なくされた。研修事業は日程調整や研修方法の変更を行いながら可能な範囲で実施した。特に、令和3、4年度は、新任期訪問看護師を対象とした県外研修が実施できず影響を受けた。

2) 県内看護師に対する実践型研修を、訪問看護ステーション看護師、医療機関看護師、看護教員を対象に実施した。日程を縮小した研修もあったが、参加者の満足度は高く、所属施設や自己の実践にフィードバックできるものであった。

3) 県内の令和2～4年度の新卒入職者は7名であった。新卒訪問看護師の育成に取り組む訪問看護ステーションが増えつつあり、令和4年度に作成した「新任期訪問看護師育成標準プログラム」は、訪問看護師の育成・定着のための一助となり得ると考えられる。令和5年度に検証委員会を設けプログラム内容や活用等についての検討を予定している。

4) 新任期訪問看護師のみならず、すべての訪問看護師にとって、働き続けられる職場環境の整備は重要である。令和3年度実施の「訪問看護師が働き続けられる環境づくりに関する調査研究」により、県内の訪問看護師の実態が明らかになり、今後の対応への示唆が得られた。

5) 宮崎県、県看護協会と協力・連携し事業展開を行った。特に臨床研修では、訪問看護ステーション及び医療機関の理解のもと、県内関係機関の訪問看護人財育成に対する体制づくりが推進された。

6) 医療的ケア児の支援に関する医療機関側と在宅側双方のニーズが非常に高く、令和4年度実施の医療的ケア児支援をテーマとした「看護師交流研修」は有用な研修であった。今後さらに、県立こども療育センターとの連携を強化し、「地域志向の看護力育成」のための位置づけを明確にした取組みが必要である。

7) 卒後3年目の訪問看護師に対する研究支援は、学会報告に至らなかった。訪問看護ステーションの組織全体としてのバックアップを得ながら、計画的な支援が必要である。

以上より、本事業の目的はおおむね達成できた。

2) 宮崎県委託事業

4-3)

| | |
|------------------------|---|
| 1 研究代表者氏名 (事業代表者氏名) | 小野 美奈子 |
| 2 事業名等 | 委託事業) 保健師の力育成事業 |
| 3 事業組織 | 宮崎県健康増進課課長補佐(統括保健師) : 益留真由美 宮崎県医療薬務課看護担当 : 黒岩由衣、鵠香織、 宮崎県健康増進課 : 永野秀子 宮崎県中央保健所 : 工藤裕子 宮崎県立看護大学 : 小野美奈子、川原瑞代、中村千穂子、松本憲子、高橋秀治、河野朋美、 高本佳代子、木添茂子 宮崎大学医学部看護学科 : 蒲原真澄 保健所保健師 : 田村ひろみ(延岡保健所 : 新任保健師研修担当) 西野夢佳(日南保健所 : フォローアップ研修担当) 武田靖子(中堅保健師研修担当) 退職保健師 : 濱田京子・齊藤皆子・峯田孝子・沖田世理子(自宅) 県看護協会保健師職能委員 : 井上恵弥(国富町) 市町村保健師 : 山之口市子(えびの市) |
| 4 事業実施期間 | 令和2年4月1日から令和5年3月31日まで (対象年度 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで) |
| 5 事業の目的 | 複雑化する地域保健の課題を解決し、県民の健康の維持増進及び保健・医療・福祉の向上を図るため、県、看護系大学、看護協会との協働の中で「宮崎県保健師現任教育マニュアル改訂2版」に沿った段階別保健師研修を実施することにより、保健師の資質及び実践力の向上を目指すとともに保健師の現任教育を推進する。 |
| 6 事業実施報告 | 1) 宮崎県段階別保健師研修運営委員会を組織し、以下の活動を行った。 (1) 宮崎県段階別保健師運営委員会開催(6/9、10/13、12/8、3/2 : 宮崎県立看護大学) (2) キャリアアップ研修企画・運営・評価、個別指導 (受講生5名、7/19、9/29、11/12、12/15、2/16 : 宮崎県立看護大) 個別指導3名 1/12 : 宮崎県立看護大) (3) 段階別保健師研修の企画・運営支援、講師 ・新任保健師研修(受講生名17名(2名辞退) : 8/9、9/20、10/31、11/22、12/9、1/17 ○オンライン併用 : 延岡保健所、宮崎県総合保健センター) ・フォローアップ研修(受講生8名 : 8/3、9/26、10/31、1/18 : 宮崎県総合保健センター、宮崎県立看護大学) ・中堅保健師研修(受講生6名 : 7/21、8/22、9/7、11/10、12/13、1/20 : 都城総合庁舎、都城保健所、宮崎県立看護大学) (4) アクションプラン等の個別指導 (5) コンサルタント登録7名及び段階別保健師研修への派遣 (6) 宮崎県段階別保健師研修運営委員会における出前公開講座 : コロナ禍により実施せず |
| 7 事業の評価 | 1) キャリアアップ研修 ■企画評価 場所は、県立看護大学のLL教室で実施した。健康データをパソコンで分析し健康課題を抽出し施策化することを目的としているため適切であった。回数については、5回の実施回数であった。受講生の進捗状況をみながら個別指導も入れながら実施できたので適切であった。 |

公開講座は宮崎県保健師長会と合同研修とした。地域診断の向上を図ることを目的で実施した。講師は、県立看護大学 中尾教授により「健康データから地域をみる～アンケート調査の活用～」と題して演習を交えながらの講義とした。場所は、県立看護大学LL教室で実施した。パソコンを触りながら実際にデータ分析方法を学ぶことができた。慣れていない者には時間が足りなかった。

キャリアアップ受講生4名が参加した。健康データから地域の健康課題を見いだすためのデータ分析は必要でありデータ分析から政策動向を見据えた活動の大切さを考える機会となった。

■実施評価

- ・受講生は5名であった。定員を6名としており指導をうけるには適切であった。2人が1回欠席したが3人はすべて出席した。
- ・県保健所の保健師は、県全体の難病保健のあり方に取り組んでいた。中尾教授から助言をもらい大量のデータを分析し、保健師活動についても分析していた。宮崎市の保健師3人は、過去の調査を再度分析し課題を抽出し今後の取り組みを地域に還元することに取り組んでいた。1名は、子どもの肥満について問題意識を持ち保護者の生活習慣と合わせて分析した。あとの1名は、現在実施している妊産婦健康診査と妊娠期のリスクを産後うつ病質問票の点数とあわせて分析した。えびの市保健師は、えびの市の自殺対策行動計画第3期計画策定のためのアンケート調査を実施し高齢者自殺の要因の分析、予防活動について取り組んだ。調査分析を自分で進め、分からないことを中尾教授に聞き確認していた。
- ・個別相談は3名が受けた。検定の仕方、わかりやすいグラフの作成や結果としてでた数値をどう読み込むか等を中尾教授に確認していた。
- ・報告会には、中央保健所から1名、宮崎市から4名、えびの市から1名の上司の参加があった。受講生の業務の中での取り組み状況や今後の期待等についてコメントした。上司から今回明らかになった健康課題を保健師活動で展開してほしい、後輩の育成についてのエールを受けていた。
- ・データ分析から施策化については、コンサルタントとの意見交換する時間を確保する必要がある。
- ・運営に関して、問題はなかった。

■結果評価

(1) 取り組んだテーマ

- ①宮崎県における難病患者の実態と難病保健活動のあり方
- ②親子の肥満対策における今後の取組考察
- ③幼少期からのメディアとの付き合い方について
～アンケート調査から必要な取組を考察する～
- ④産婦健康診査における産後うつスクリーニング検査結果と妊娠期におけるリスクとの関係性について
- ⑤高齢者自殺の要因究明と予防対策について

(2) 評価

- ・受講者全員が担当業務の健康データを分析し、課題解決に向けたテーマを設定しPDCAを意識しながら取り組むことができた。
- ・今まで実施してきた保健師活動を振り返ることにより、これからの保健師活動を考える機会となった。
- ・データを分析する手法を学び、科学的根拠に基づいた活動の大事さを実感することができた。
- ・保健計画を策定するための調査結果を多角視点から捉え、成果を見える化することができた。
- ・お互いの発表を聞き、グラフ作成や研究結果の見せ方によって聞く人への伝わり方が変わることも学んだ。
- ・すべての受講生が研究で明らかになった知見をすでに組織や関係者と共有したり、共有する計画を設定しており、実践への還元が期待できる。
- ・報告会及び最終報告書により全員到達度に達していることを確認した。

2) 保健師の力育成事業の評価

- ・県の医療政策課看護担当が中心となり、県内保健所、市町村、宮崎県段階別保健師研修運営委員会で意見交換を行い「宮崎県保健師現任教育マニュアル改訂3版」を作成した。
- ・新規で退職保健師のコンサルタントを2名確保した。

■次年度にむけての課題

- ・健康課題分析を重視しがちになってきている。健康課題解決のための事業化・施策化に対してコンサルタントとの意見交換する時間を設定する必要がある。